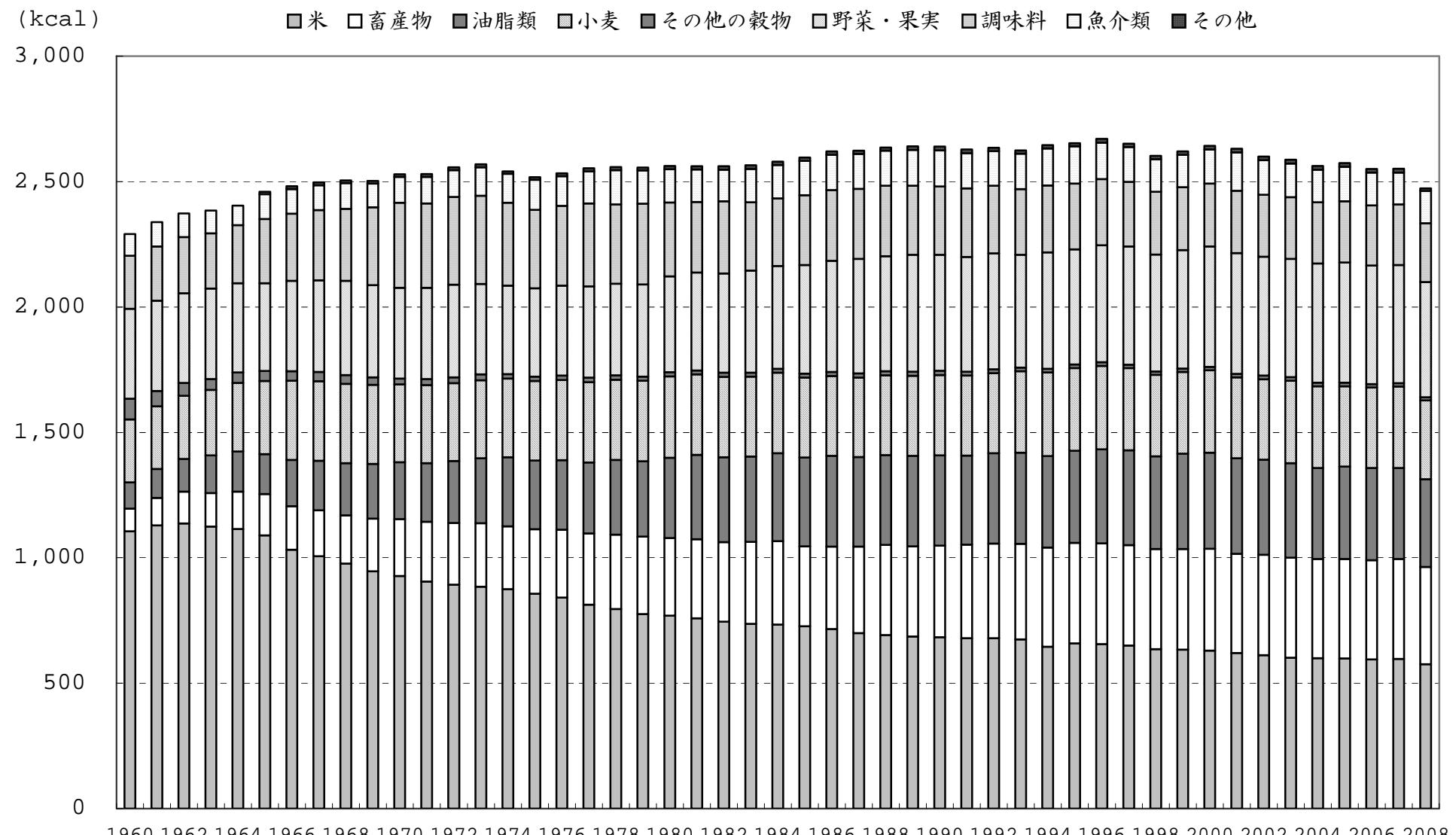
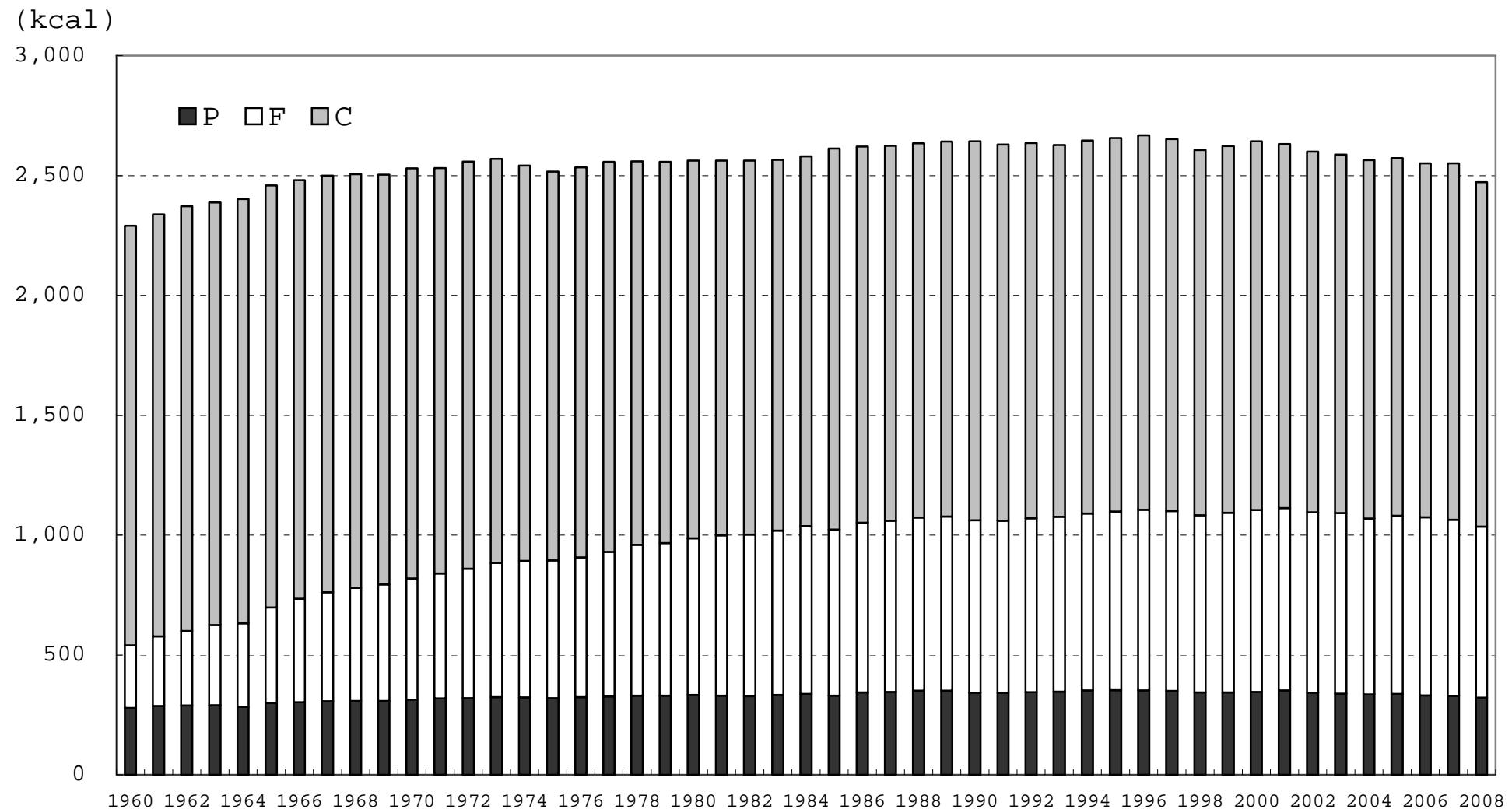


2010 「農業経済論」 (図表)



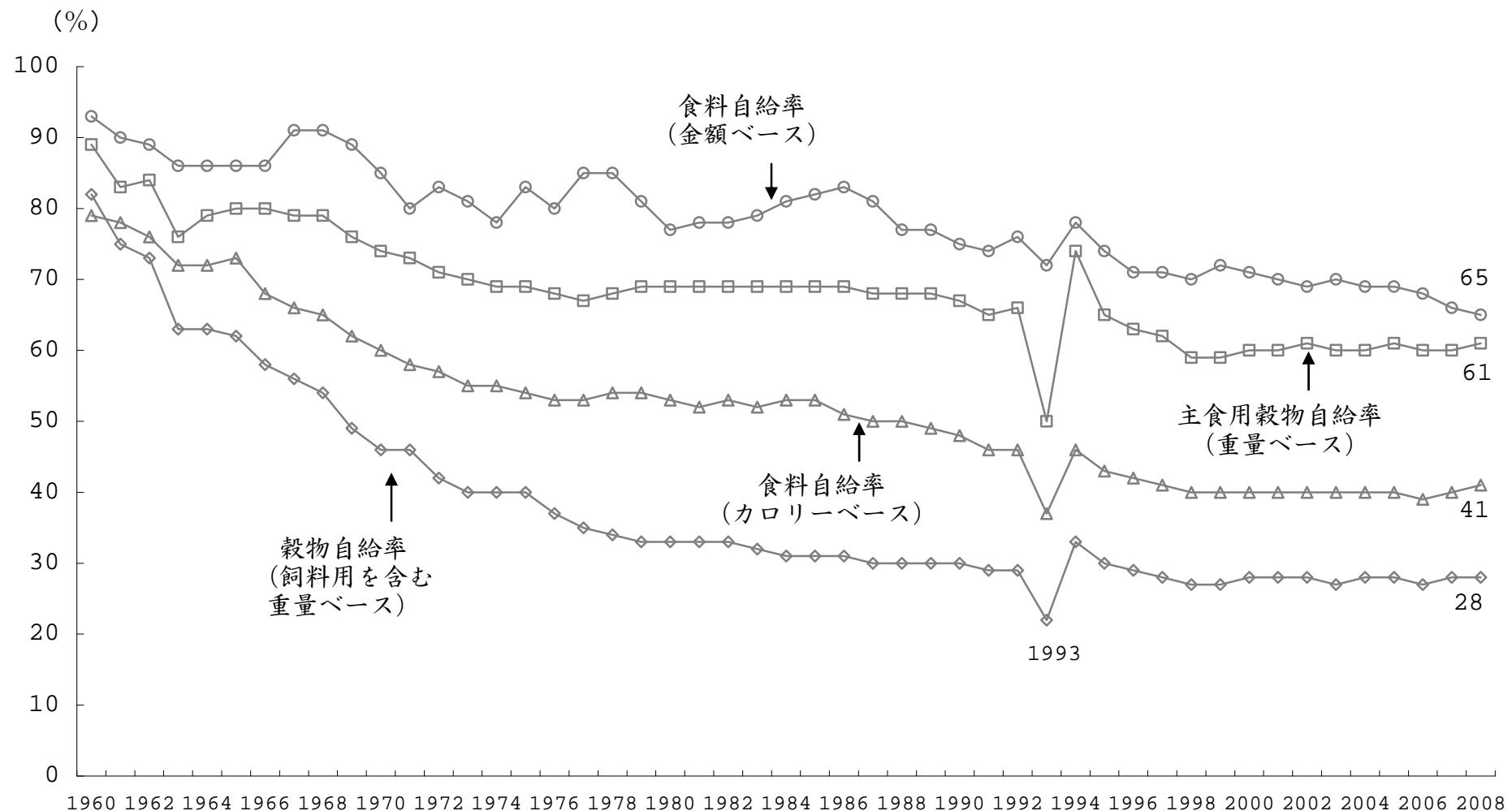
資料：農水省総合統計局『食料需給表』

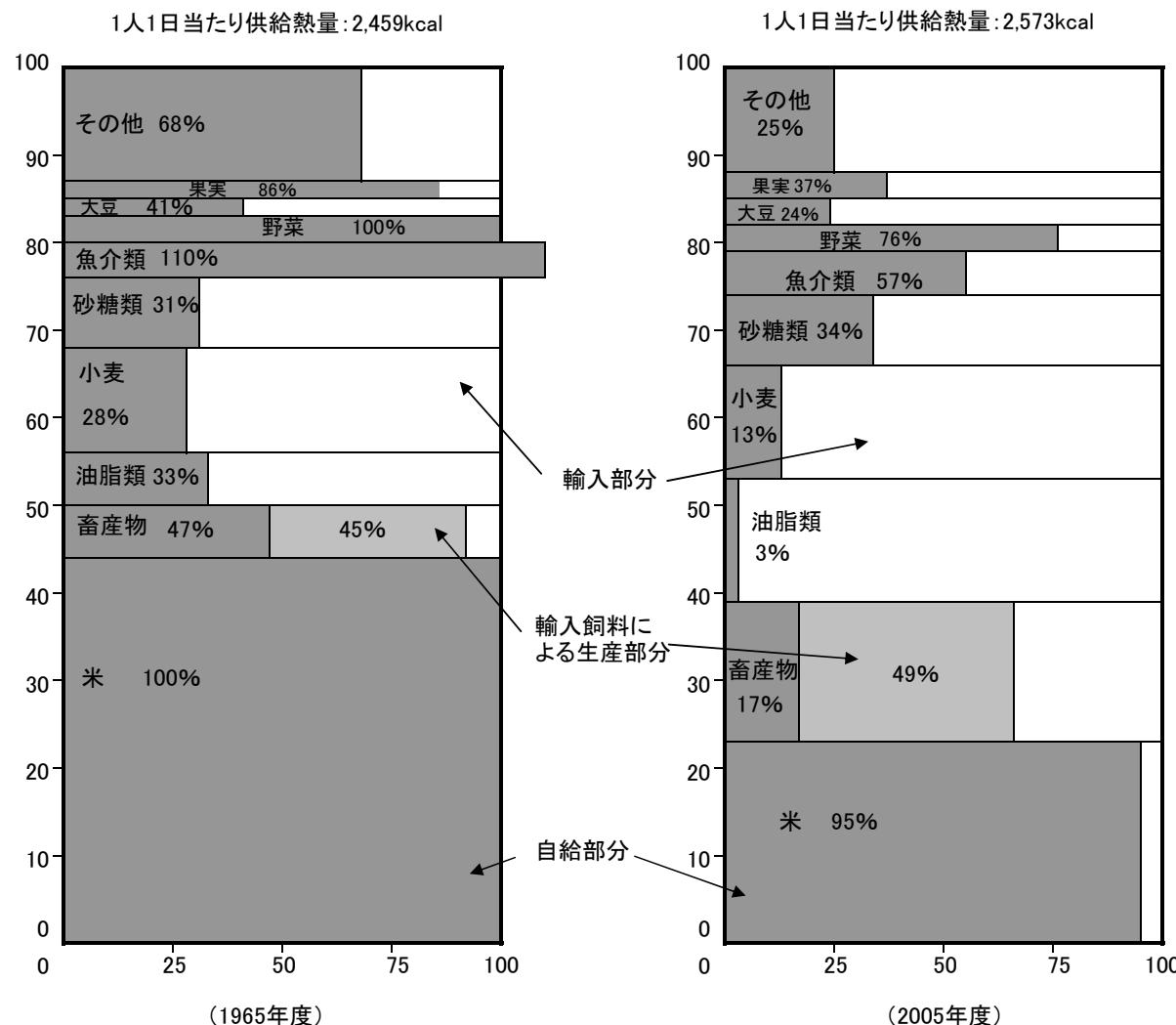
図1 1人1日当たり品目別供給熱量（1960～2008年度）



資料：農水省総合統計局『食料需給表』

図2 PFCバランスの推移 (1960~2008年度)

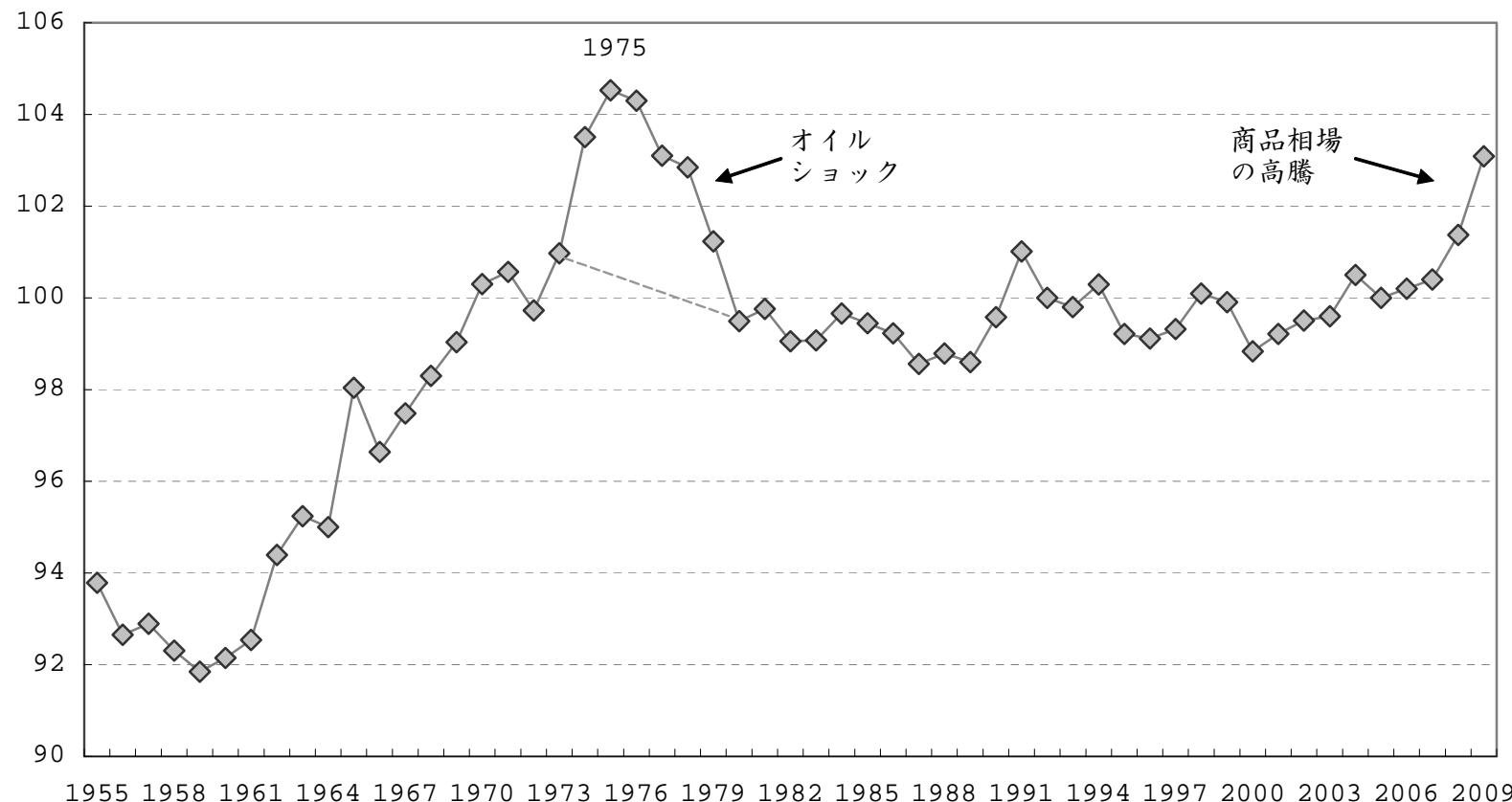




資料：農水省『食料・農業・農村白書』

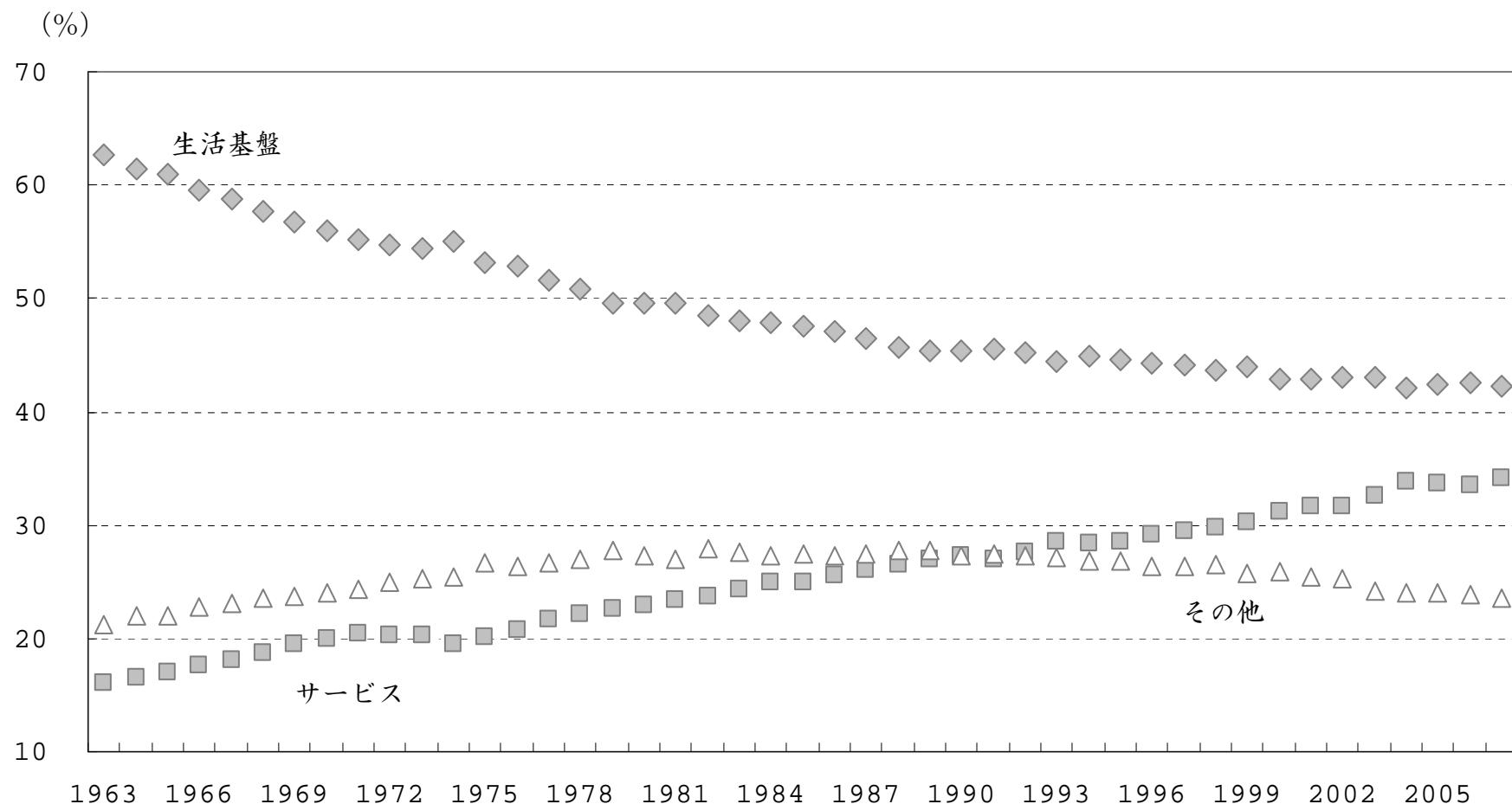
図4 品目別自給率 (供給熱量ベース)

(指数)



資料：総務省統計局『消費者物価指数』（2005年基準）
 実質食料価格指数＝食料価格指数 ÷ 消費者物価総合価格指数（持家の帰属家賃を除く）

図5 実質食料価格指数（1955～2009年, 2005年=100）

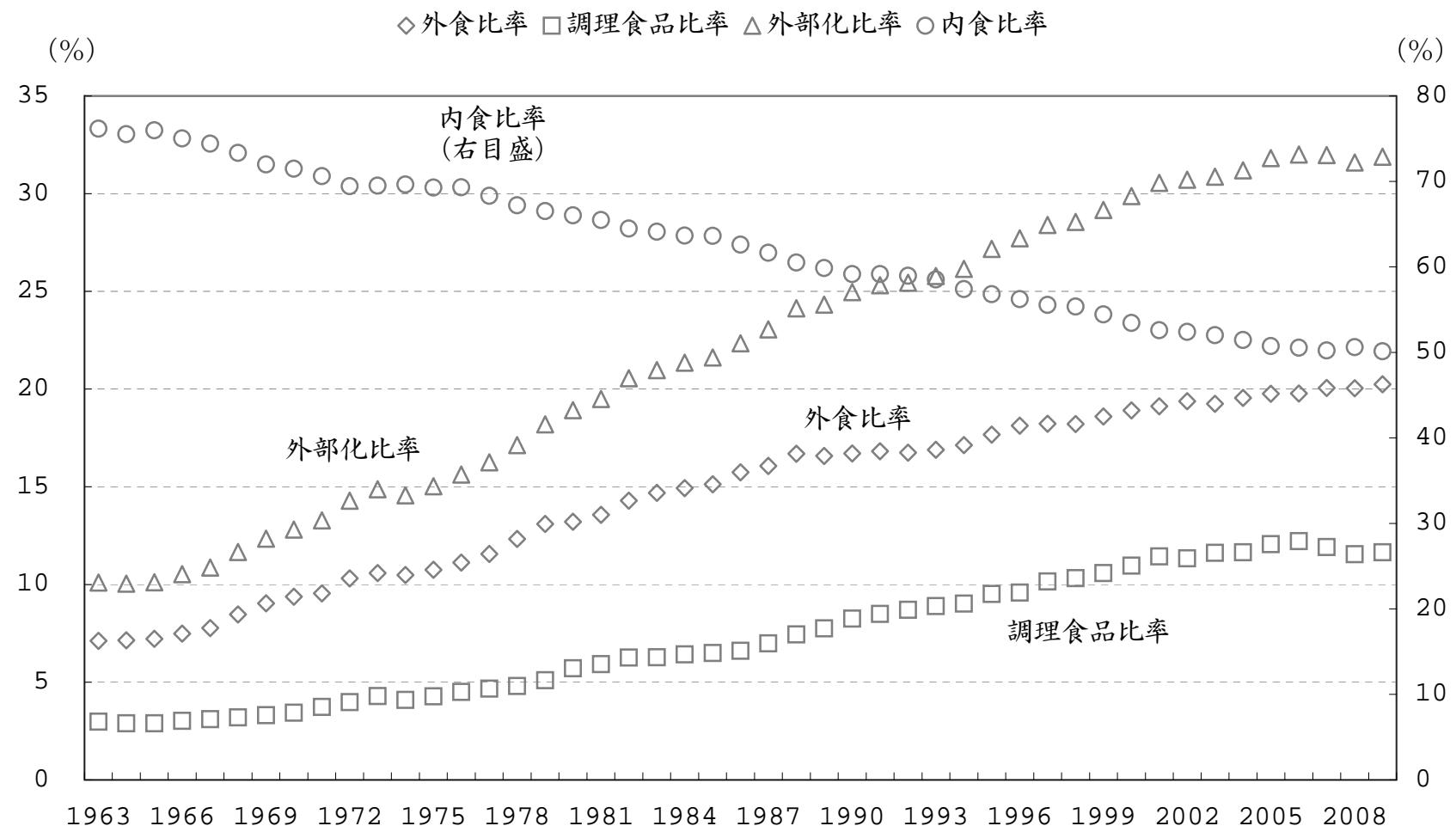


資料：総務省統計局『家計調査』（全国・勤労者世帯）

生活基盤：食料、住居、光熱・水道、家具・家事用品、被服及び履物支出の合計

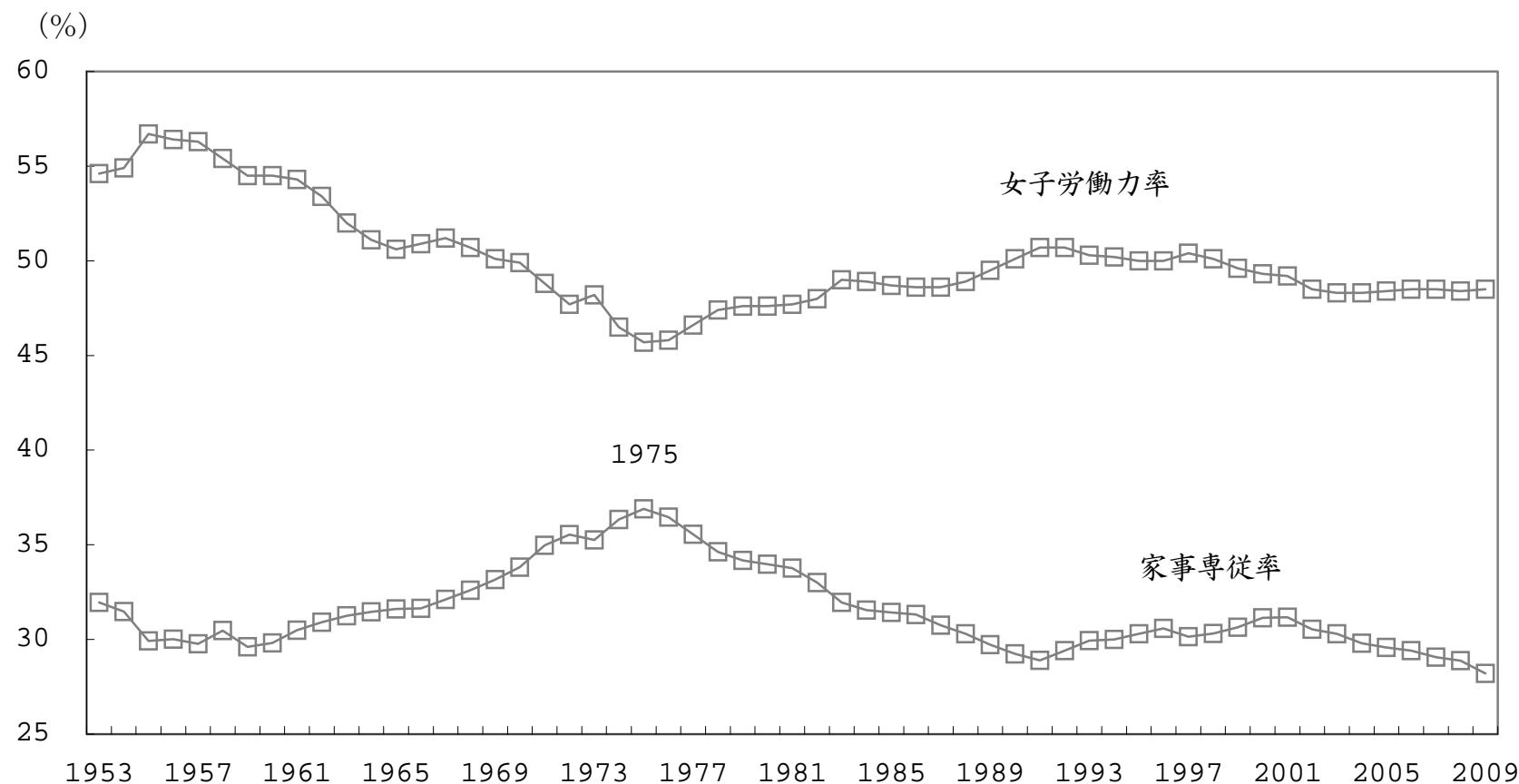
サービス：保健医療、交通・通信、教育、教養娯楽支出の合計

図6 家計の生活基盤とサービスの支出割合（1963～2007年）



資料：総務省統計局『家計調査』（全国・勤労者世帯）
内食支出：穀類、魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海藻、油脂・調味料支出の合計

図7 「食の外部化」 指標（支出割合：1963～2009年）



資料：総務省統計局『労働力調査』

女子労働力率＝女子労働力人口（就業者＋完全失業者）／15歳以上人口（女子）

家事専従率＝家事専従者（女子）／15歳以上人口（女子）

1953～1972年の数値は沖縄県を含まない

図8 女子労働力率と家事専従率（1953～2009年）

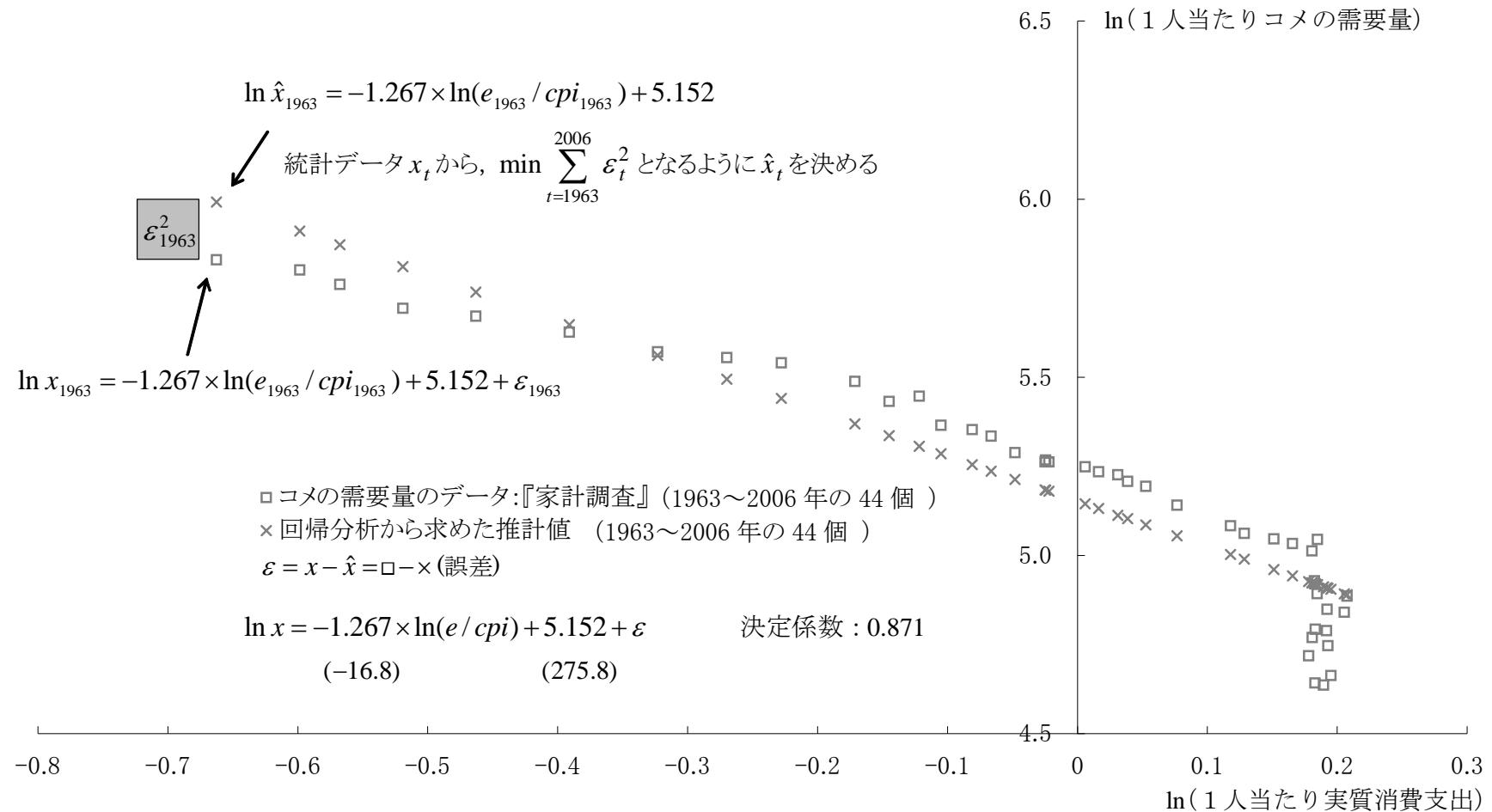


図 9 回帰分析：コメ需要の所得弾力性を求める

$$\ln(1 \text{ 人当たりコメの需要量}) = a \ln(1 \text{ 人当たり実質消費支出}) + b$$

図 10 穀物+大豆の行方

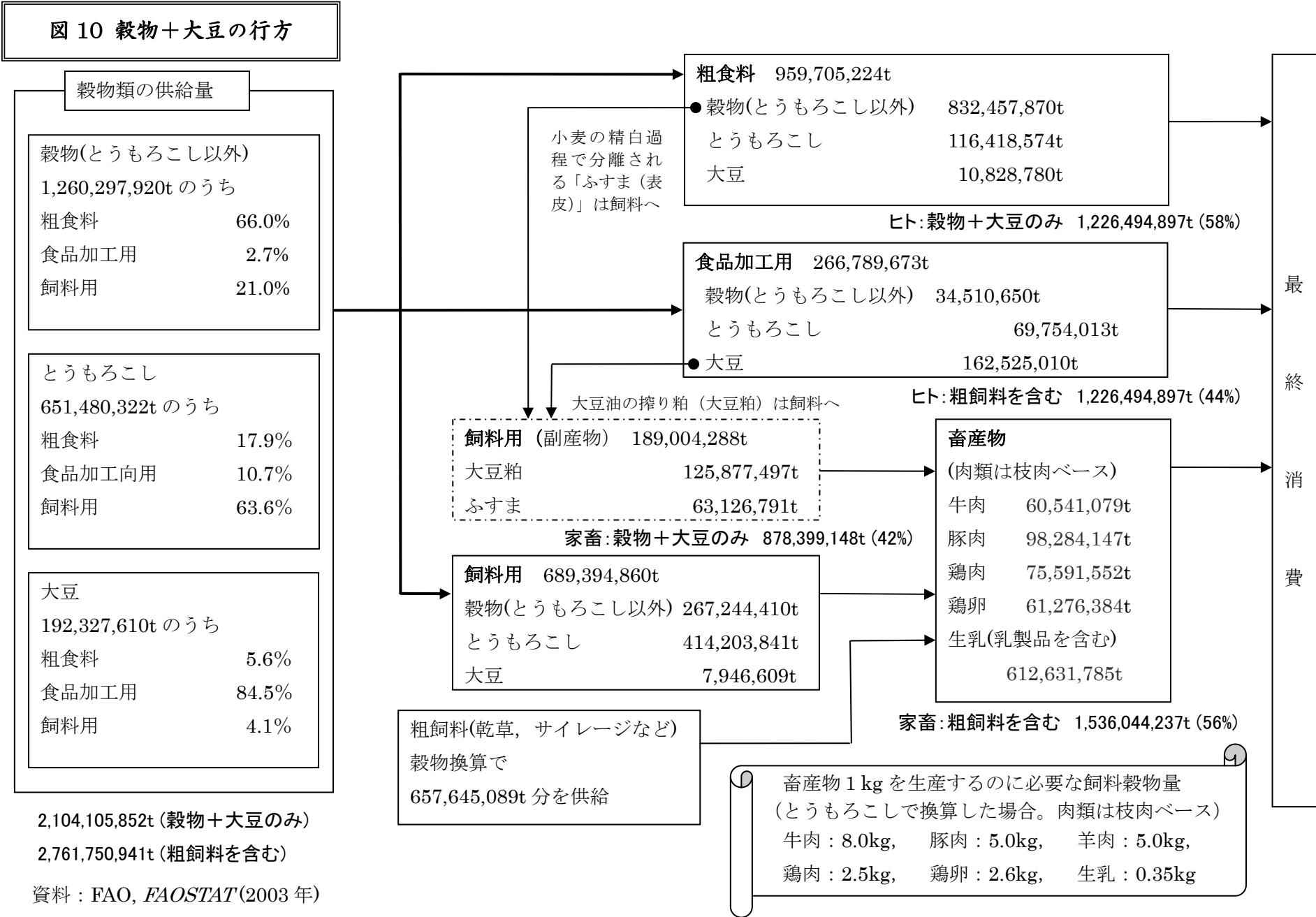
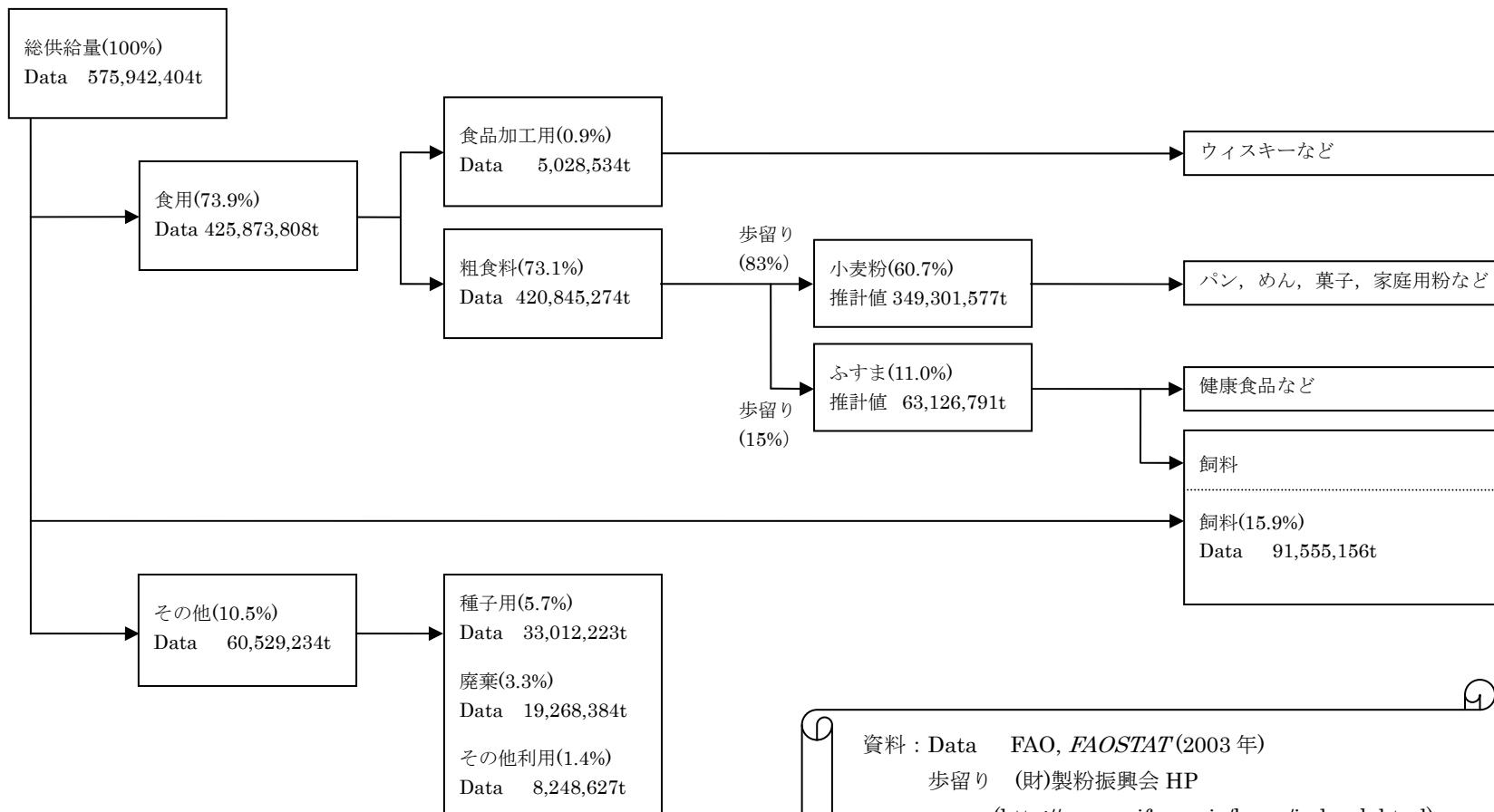


図 11 小麦の仕向先



資料 : Data FAO, FAOSTAT(2003 年)

歩留り (財)製粉振興会 HP

http://www.seifun.or.jp/know/index_k.html

推計値 Data × 歩留り ÷ 100 (Data / 推計値)

図 12 とうもろこしの仕向先

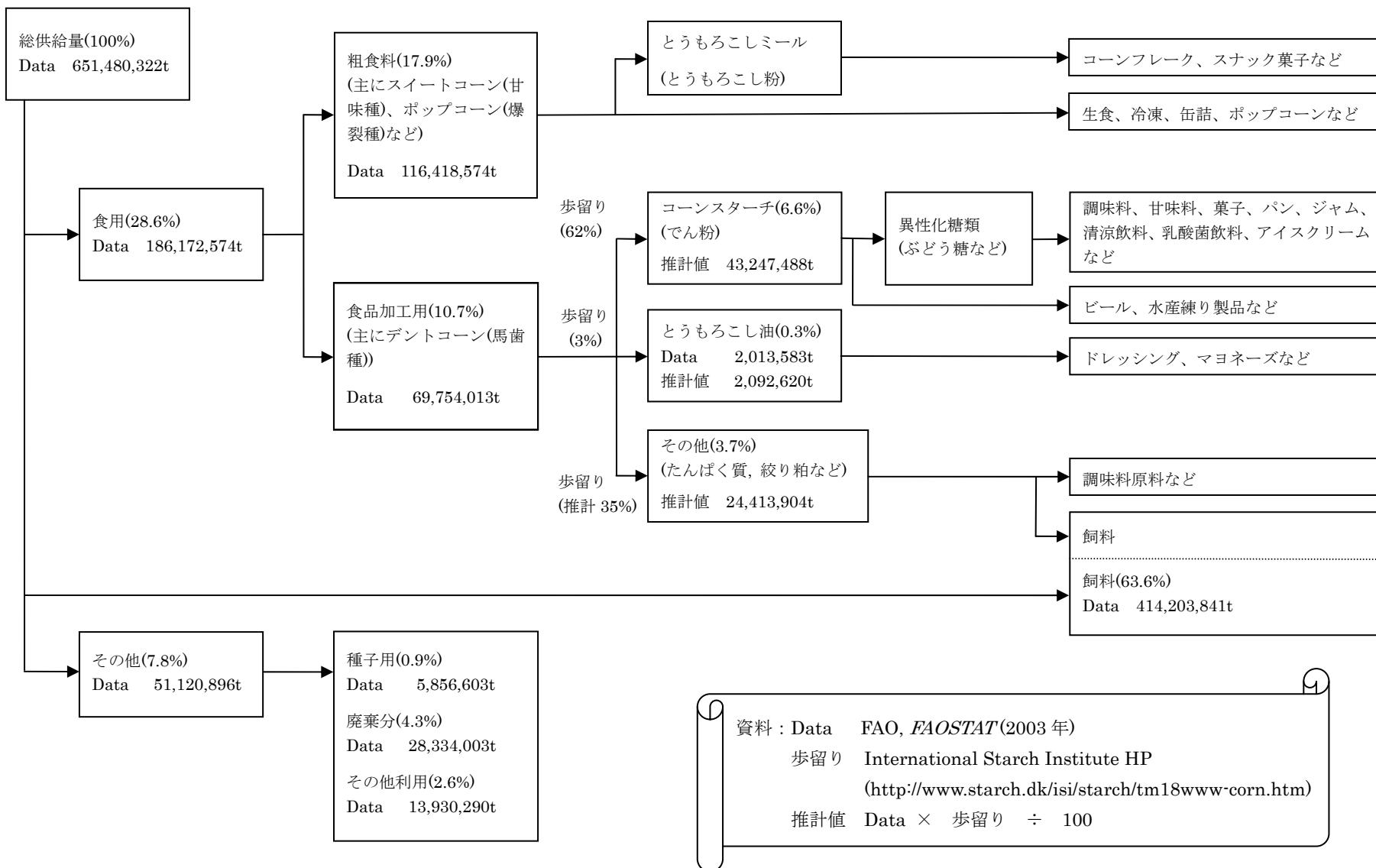
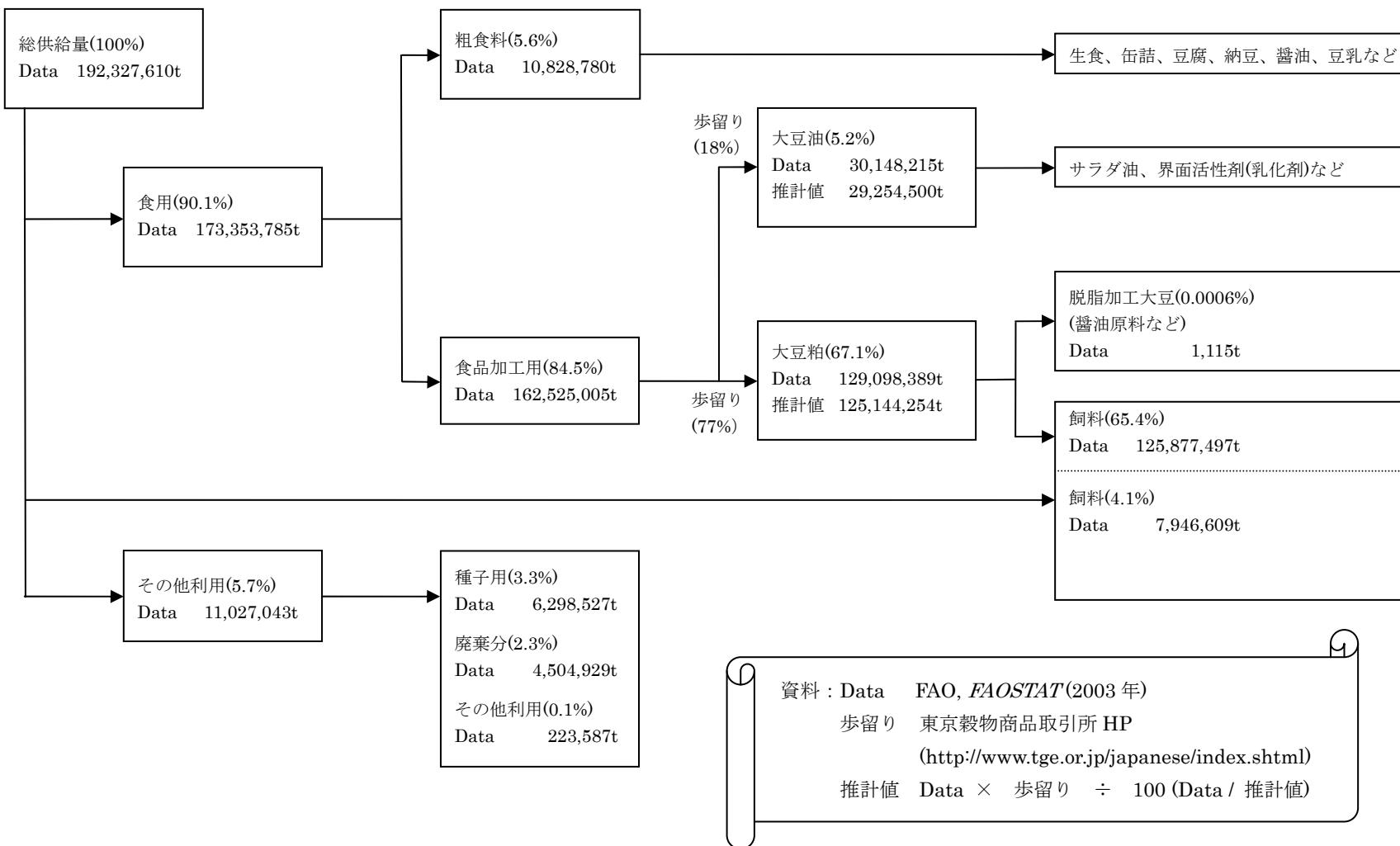
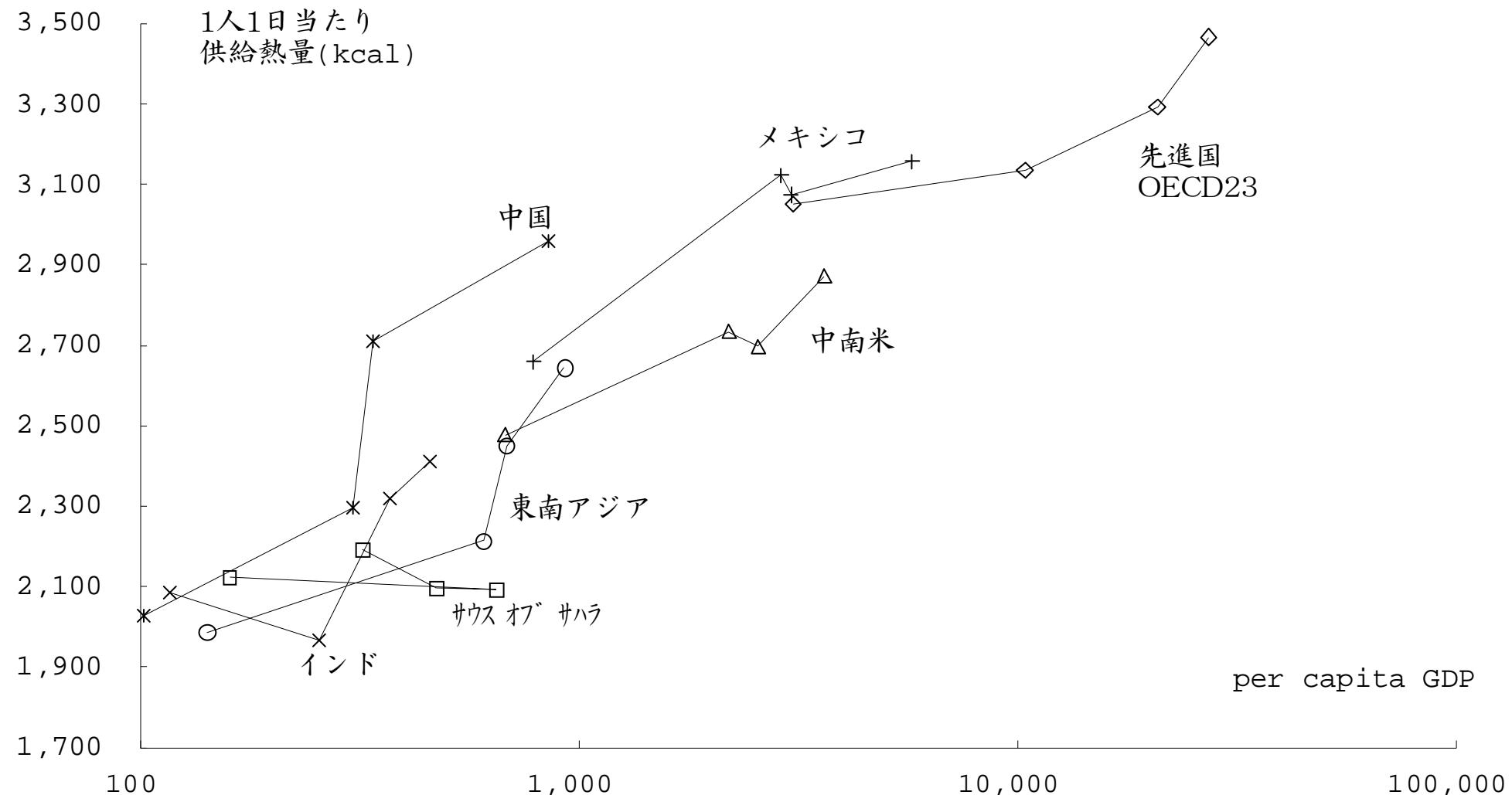


図 13 大豆の仕向先





資料 : UNSD, UNSD Statistical Database
FAO, FAOSTAT

図14 供給熱量とGDPの推移 (1970-2000)

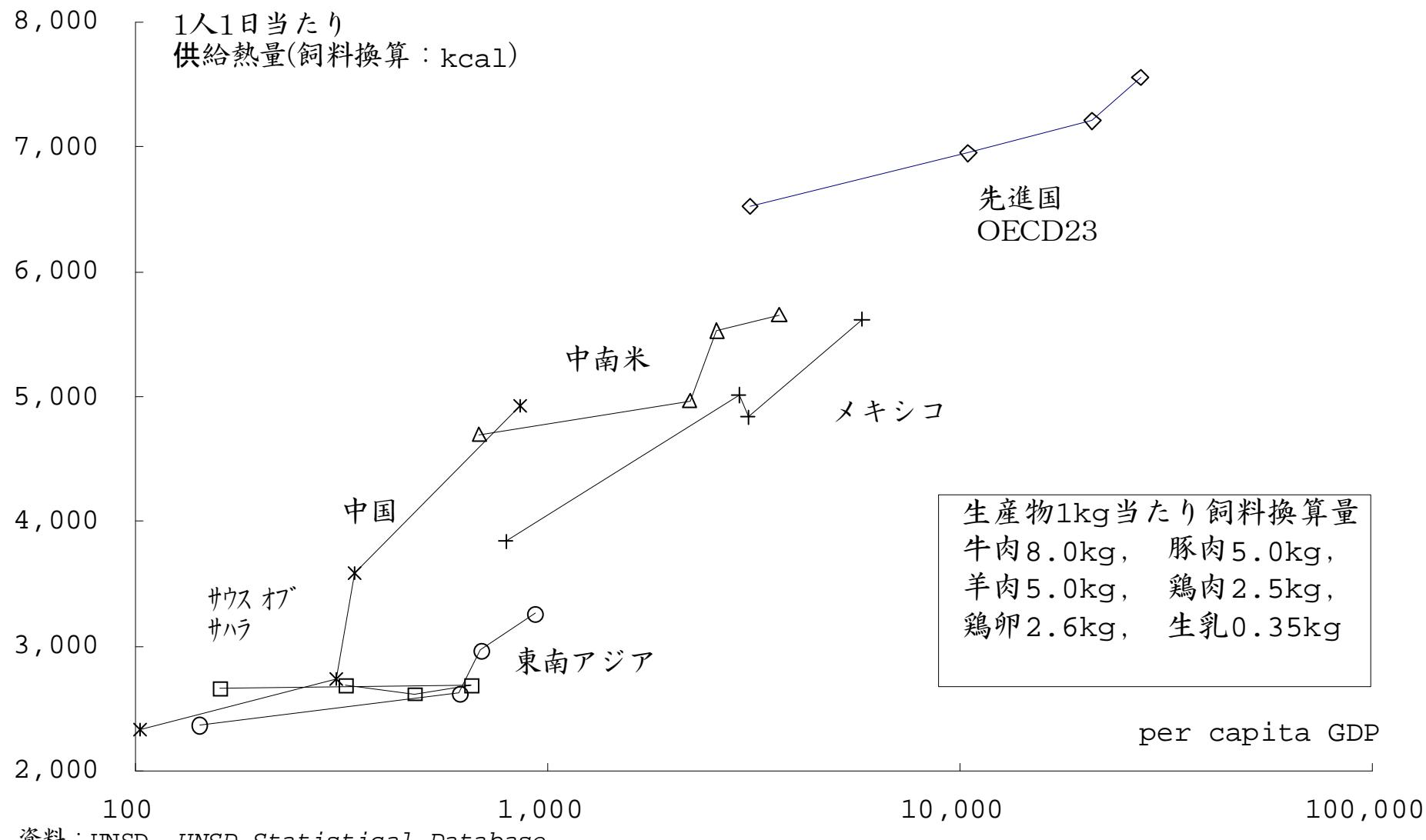
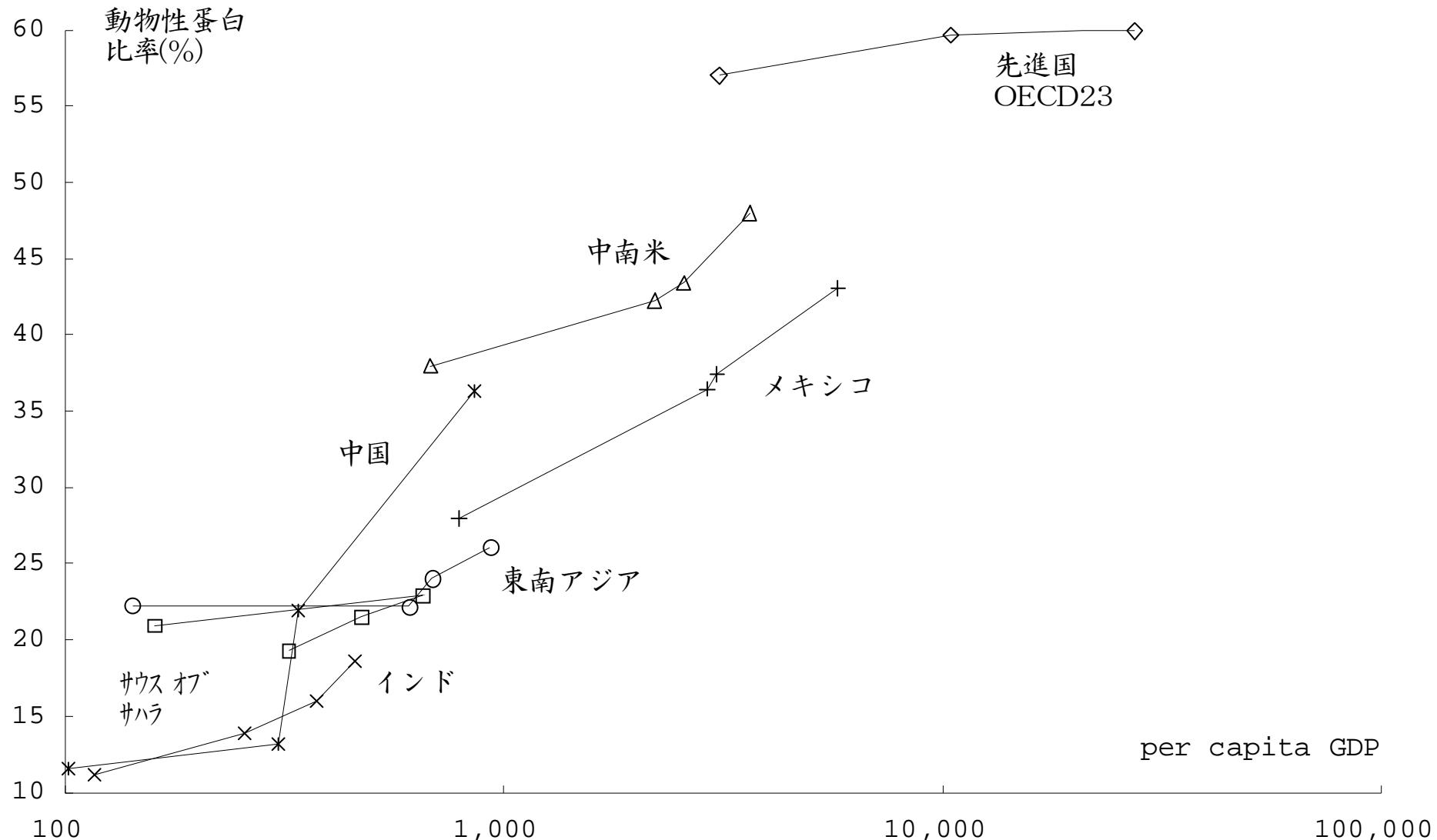
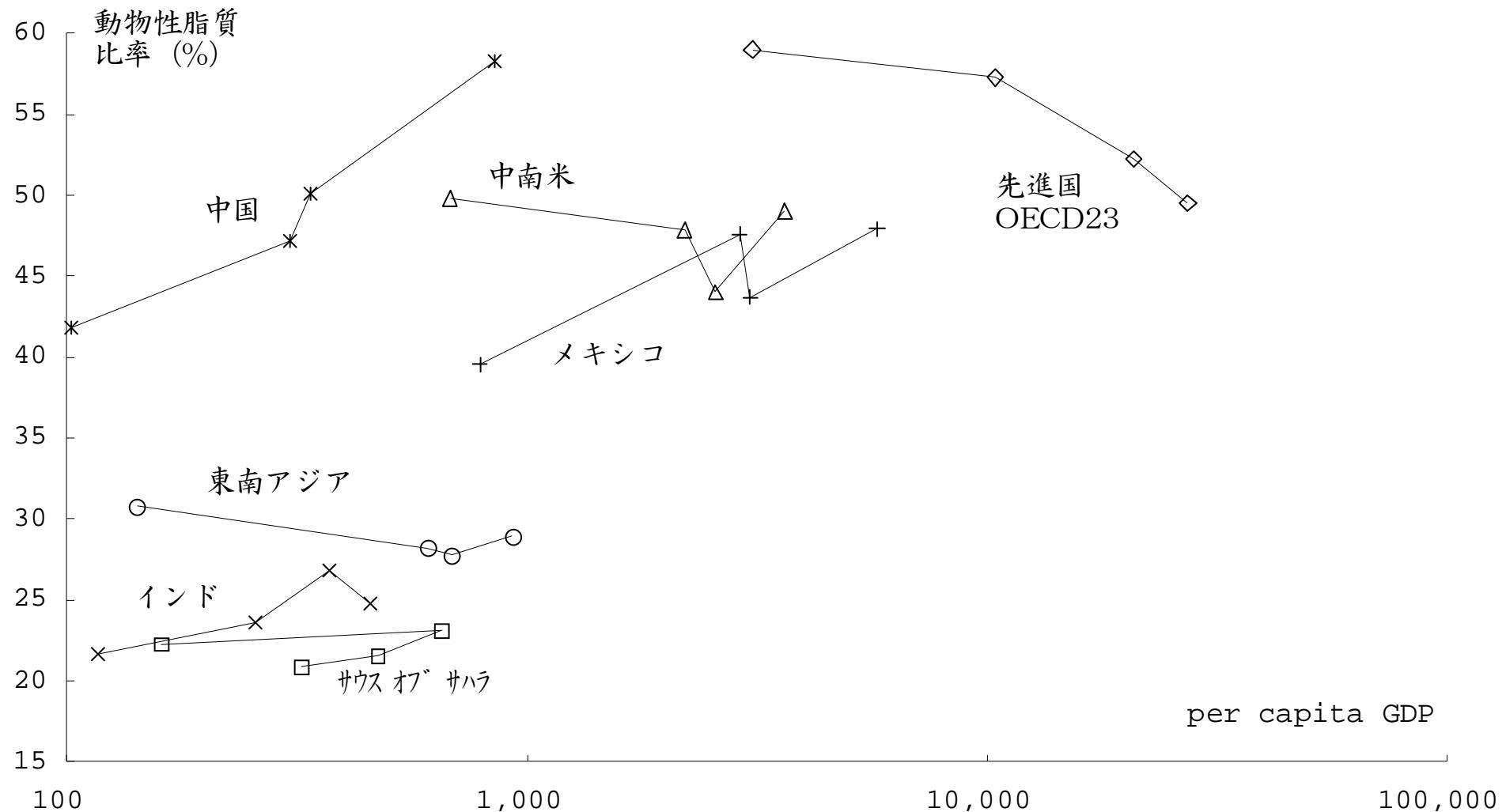


図15 供給熱量 (飼料換算) とGDPの推移 (1970-2000)



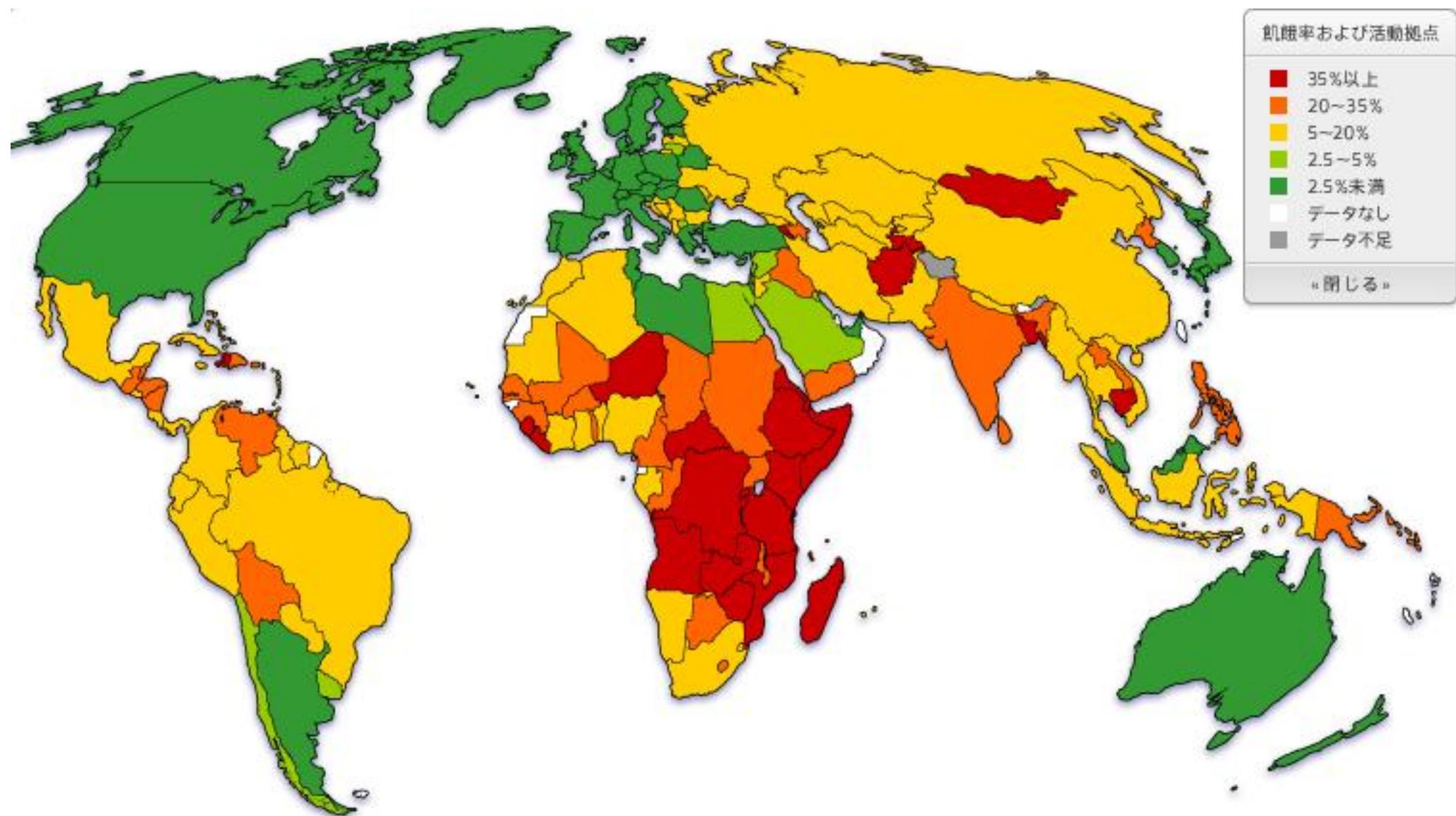
資料: UNSD, UNSD Statistical Database
FAO, FAOSTAT

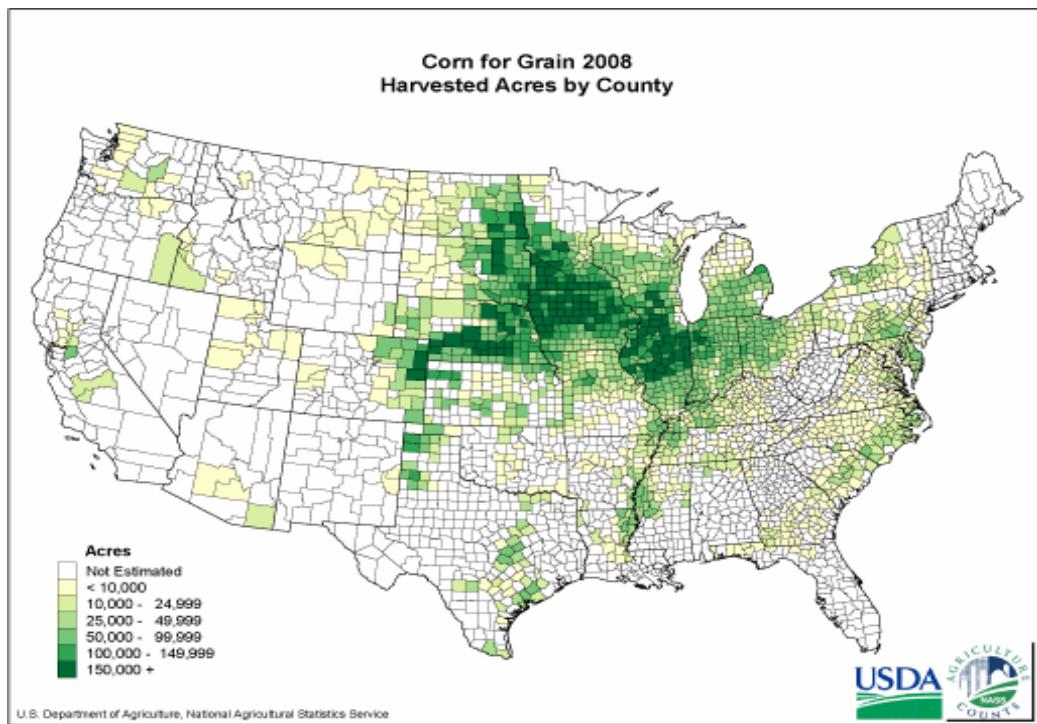
図16 動物性蛋白比率とGDPの推移 (1970-2000)



資料: UNSD, UNSD Statistical Database
FAO, FAOSTAT

図17 動物性脂質比率とGDPの推移 (1970-2000)





資料：USDA, NASS の HP より転載。

http://www.nass.usda.gov/Charts_and_Maps/Crops_County/images/CR-HA08-RGBChor.gif

図 19 米国のトウモロコシの生産地域

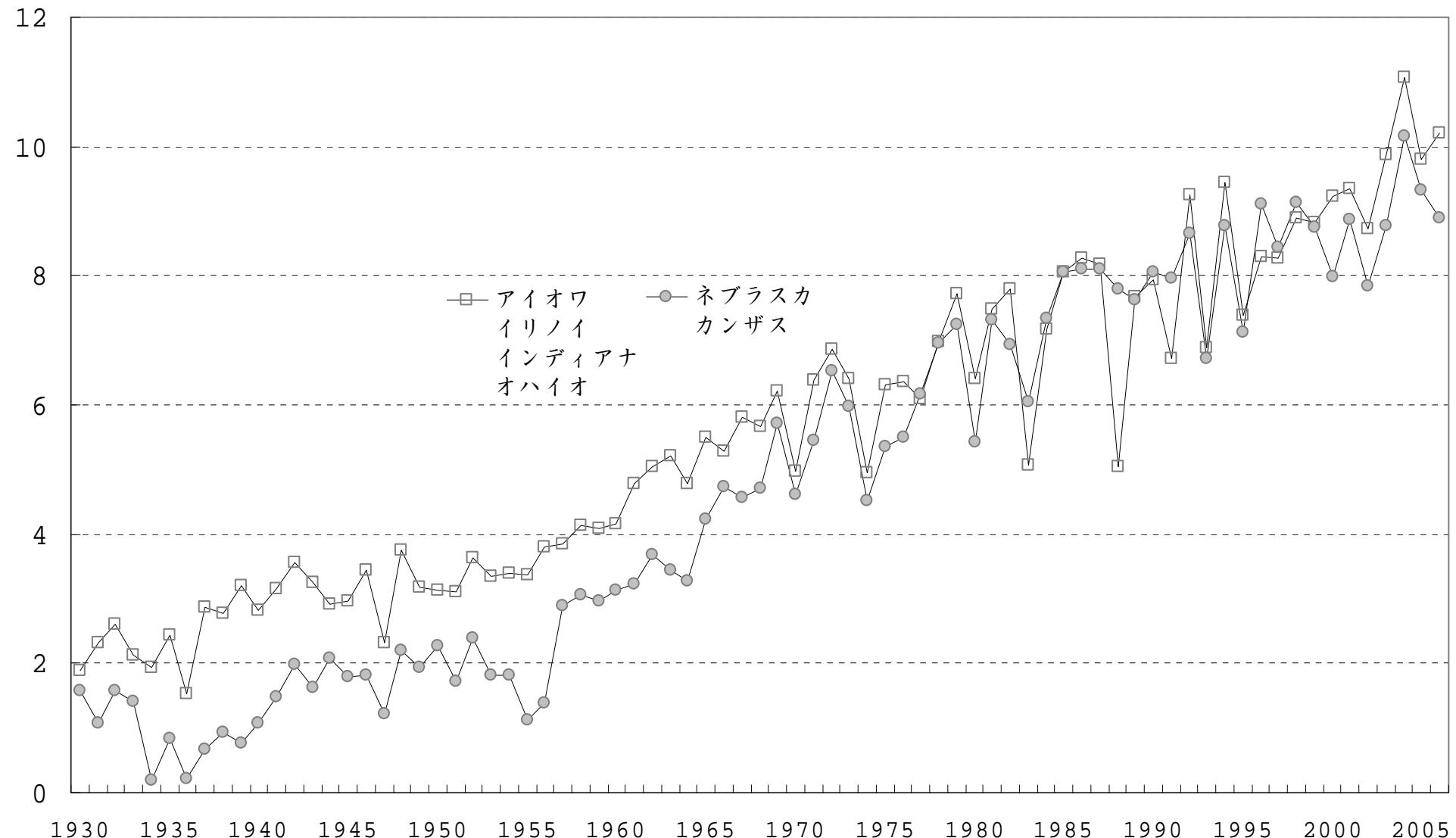


資料：USDA, 米国農業センサス HP より転載

http://www.agcensus.usda.gov/Publications/2007/Online_Highlights/County_Profiles/index.asp

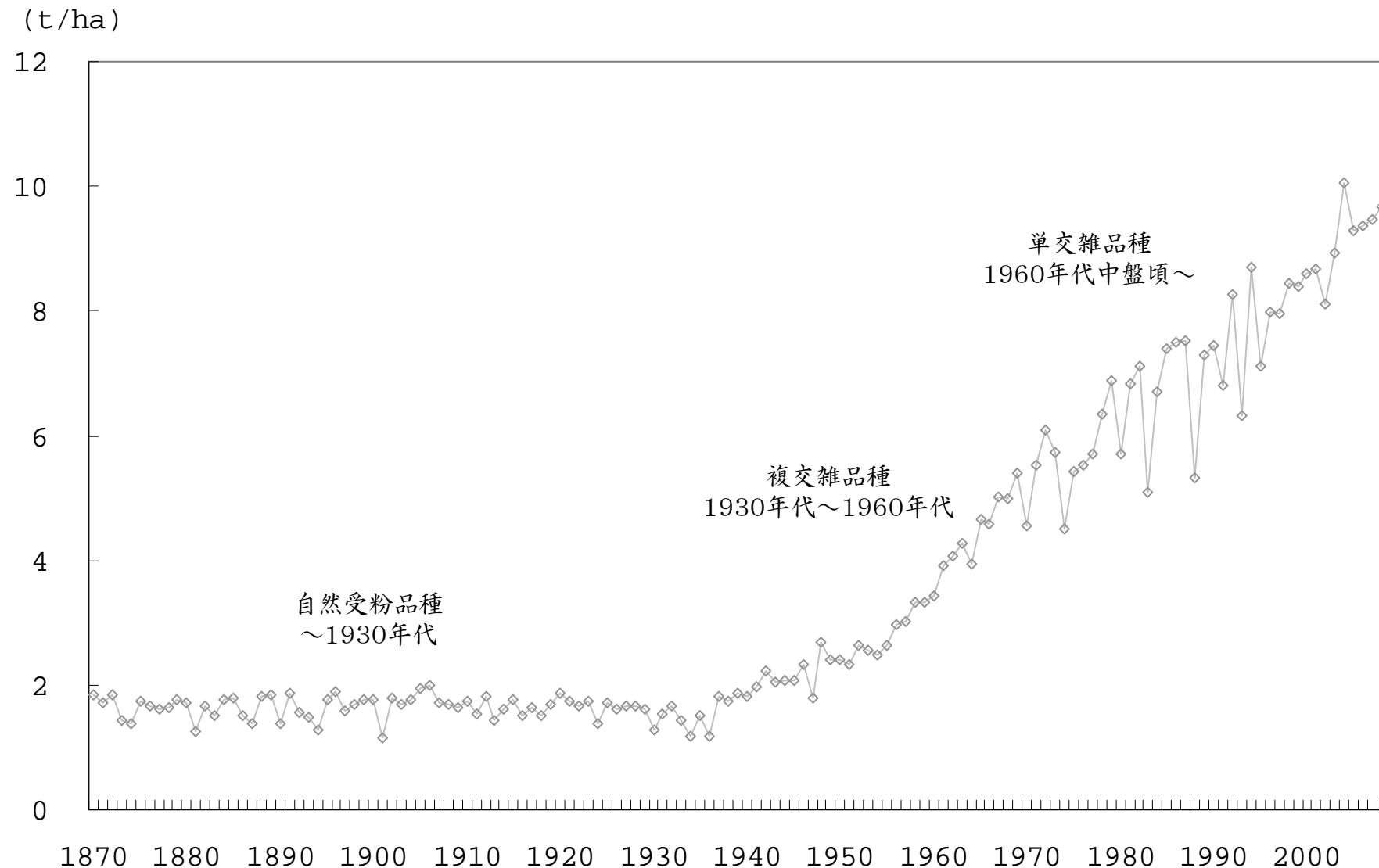
参考図 米国地図

(t/ha)



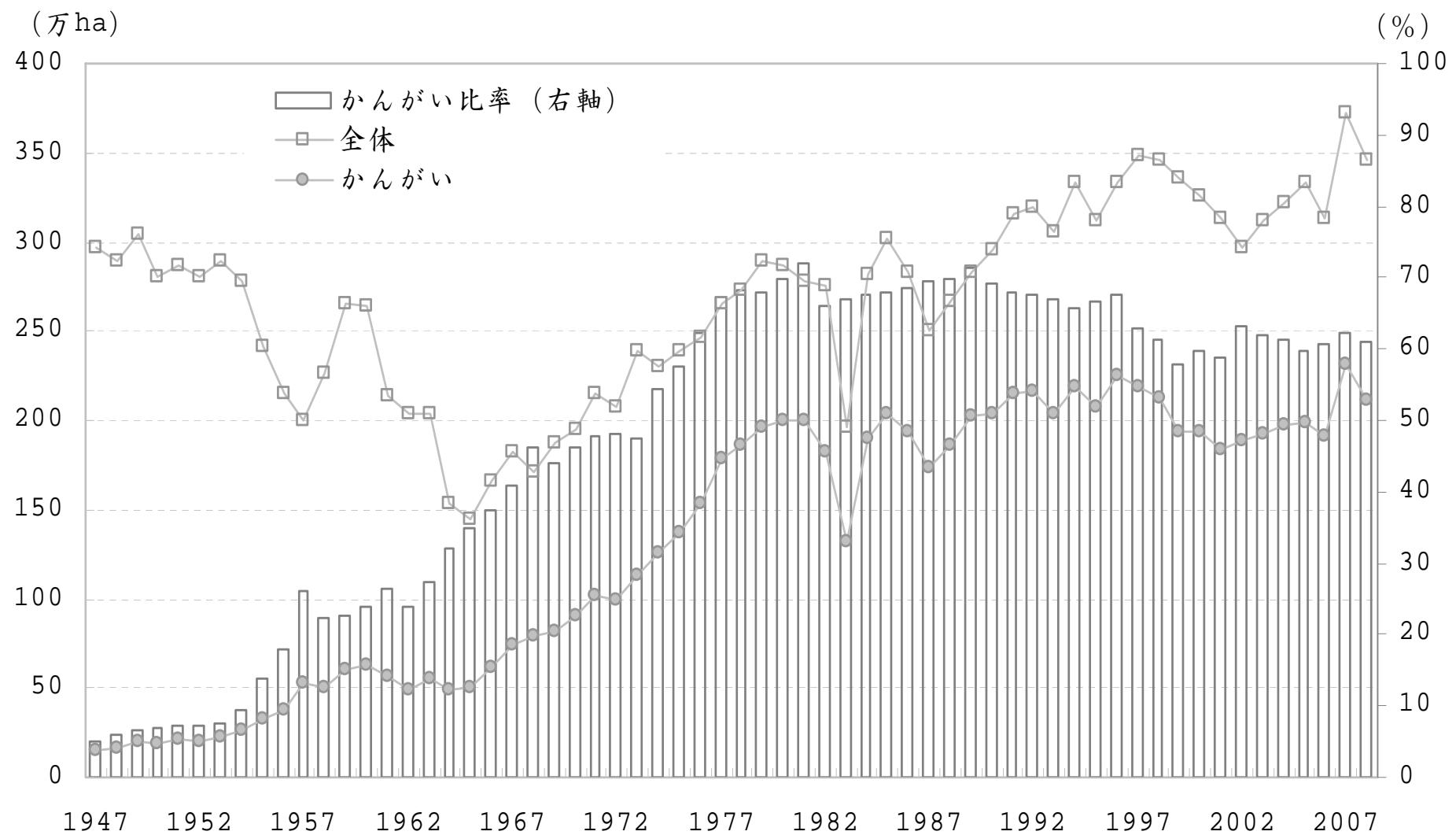
資料：USDA National Agricultural Statistics Service, Quick Stats

図20 コーンベルトにおけるとうもろこしの単収



資料: USDA, *Crop Production Historical Track Records*, 2009

図21 トウモロコシの平均単収 (米国)



資料：USDA National Agricultural Statistics Service, Quick Stats

図22 トウモロコシの収穫面積（ネブラスカ州）

Figure 2.1.6--Irrigated land in farms, 1949

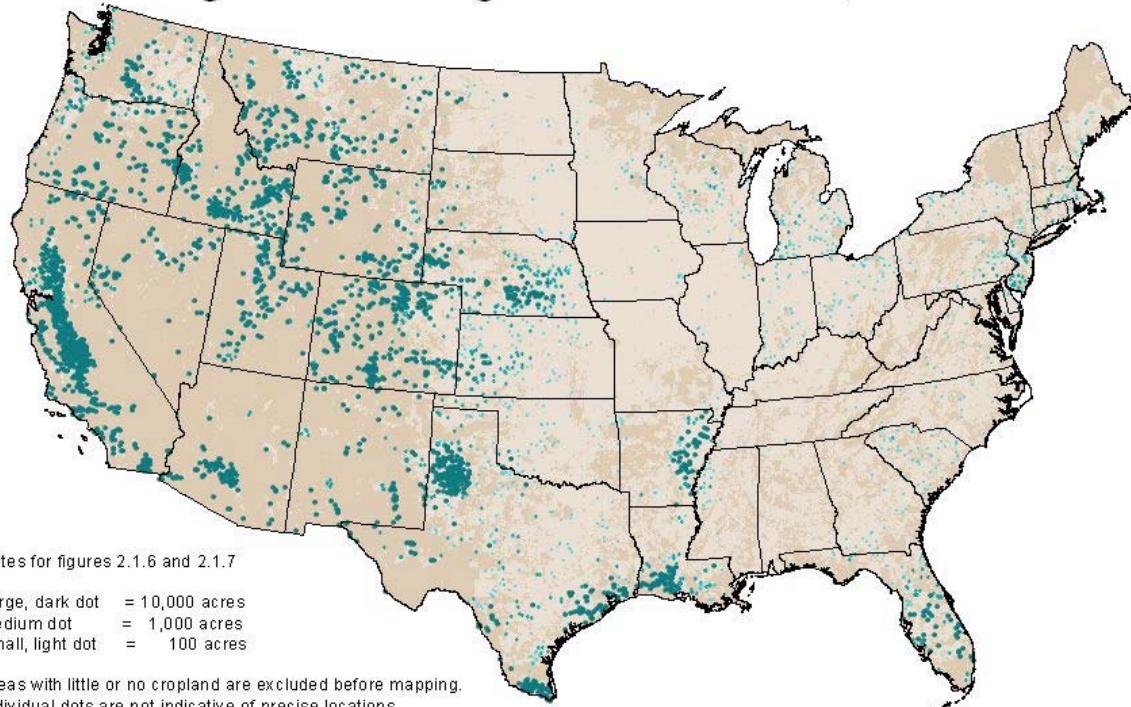
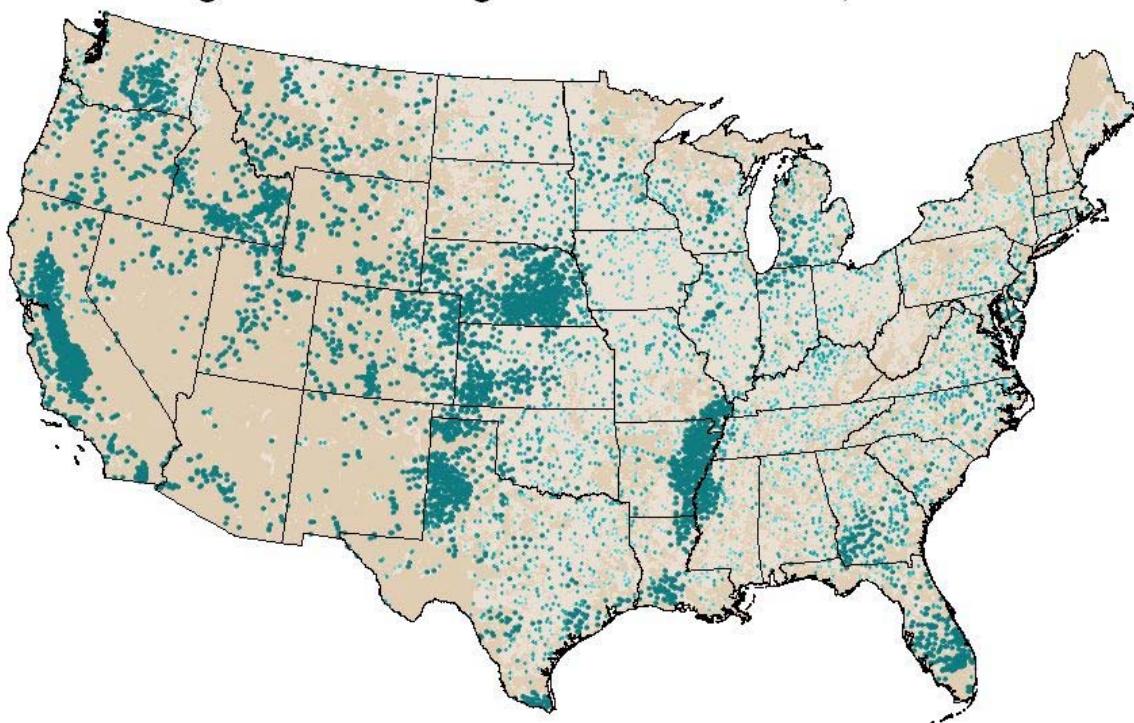


Figure 2.1.7--Irrigated land in farms, 1997





資料 : Hastings Irrigation Pipe Company の HP より転載

<http://www.hipco-ne.com/images/gated.gif>

ゲーティド・パイプ



資料 : 米国農務省の HP より転載.

<http://www.nrcs.usda.gov/NEWS/thisweek/images/irrigationsmal.jpg>

ディッチとサイフォン・チューブ

図 24 かんがい設備(1)



資料：米国地質調査所(USGS)の HP より転載

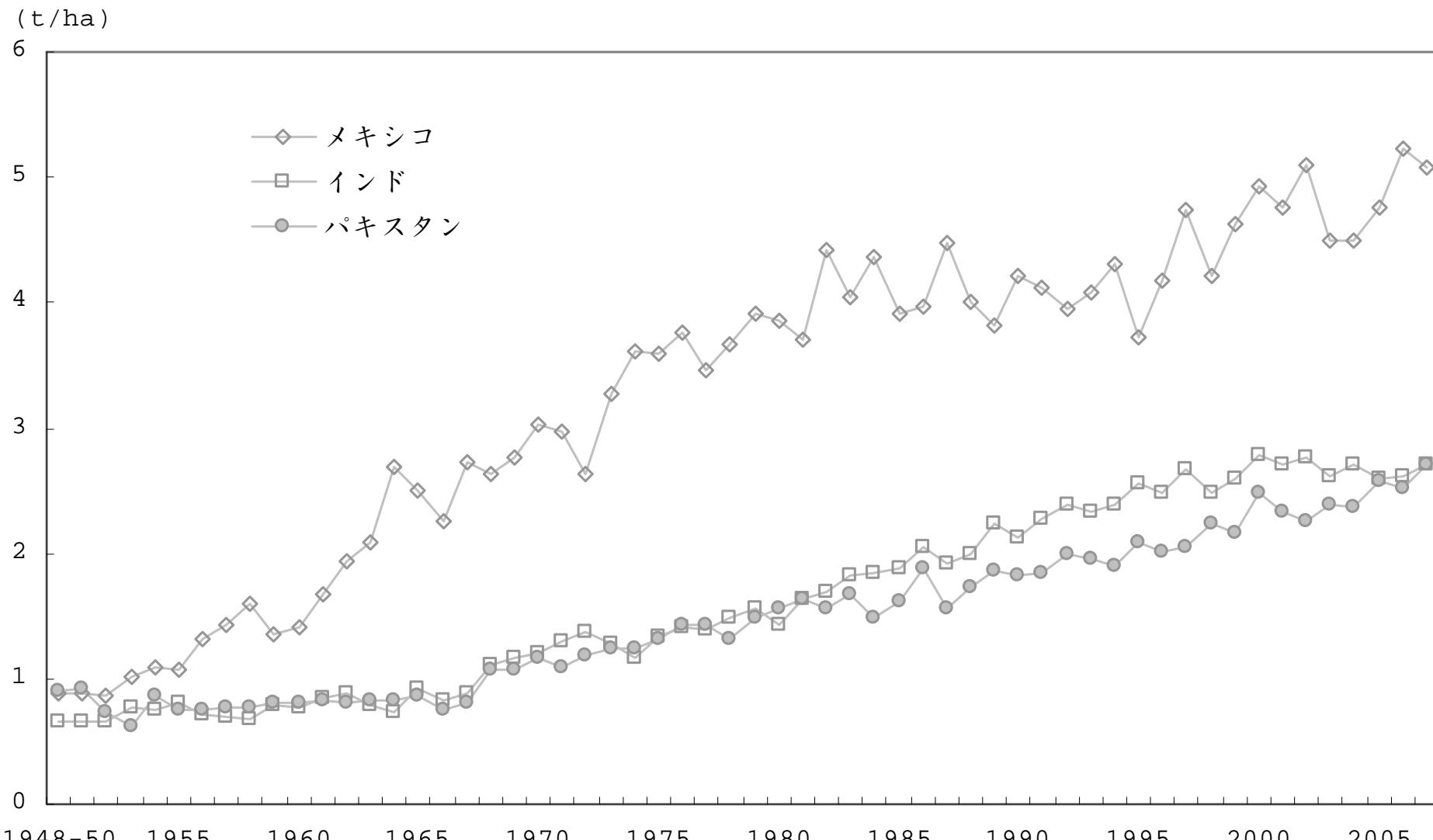
上：http://water.usgs.gov/ogw/gwfp/images/photos/cent_pivot_corn1.jpg

下：<http://water.usgs.gov/ogw/gwfp/images/photos/Slide2.jpg>

センター・ピボット

(上はネブラスカ、下はカンザス)

図 25 かんがい設備(2)



資料: FAO, Statistics Division, *World Crop and Livestock Statistics* 1948-85.

FAO, FAOSTAT

図26 メキシコ, インド, パキスタンの小麦の単収

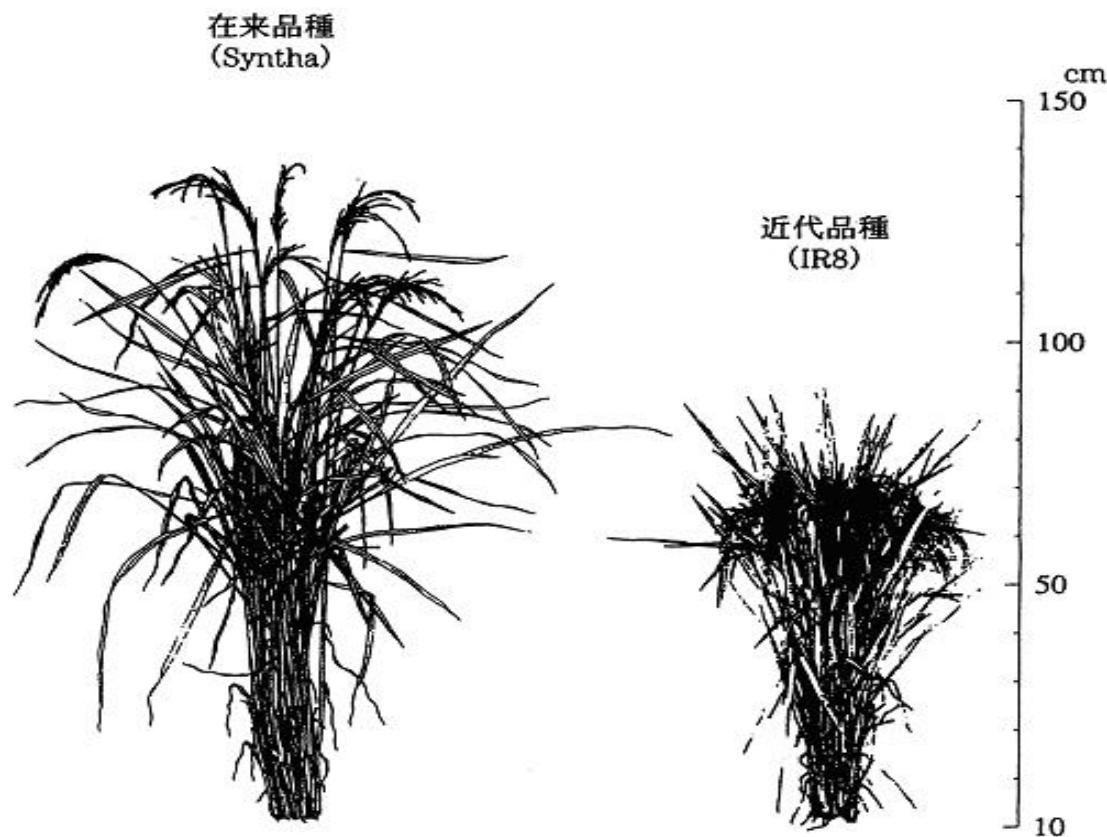


図 4-2 米の近代品種と在来品種の体型的比較

注) Synthaはインドネシア原産種で、IR5との交配でインドネシアに普及した近代品種 Pelitaを生んだ。
出所) Dalrymple (1986, pp. 2 and 20).

資料：速水佑次郎『開発経済学』(新版) 創文社, 2000, p.97 より転載.

図 27 コメの高収量品種(近代品種)と在来品種

(t/ha)

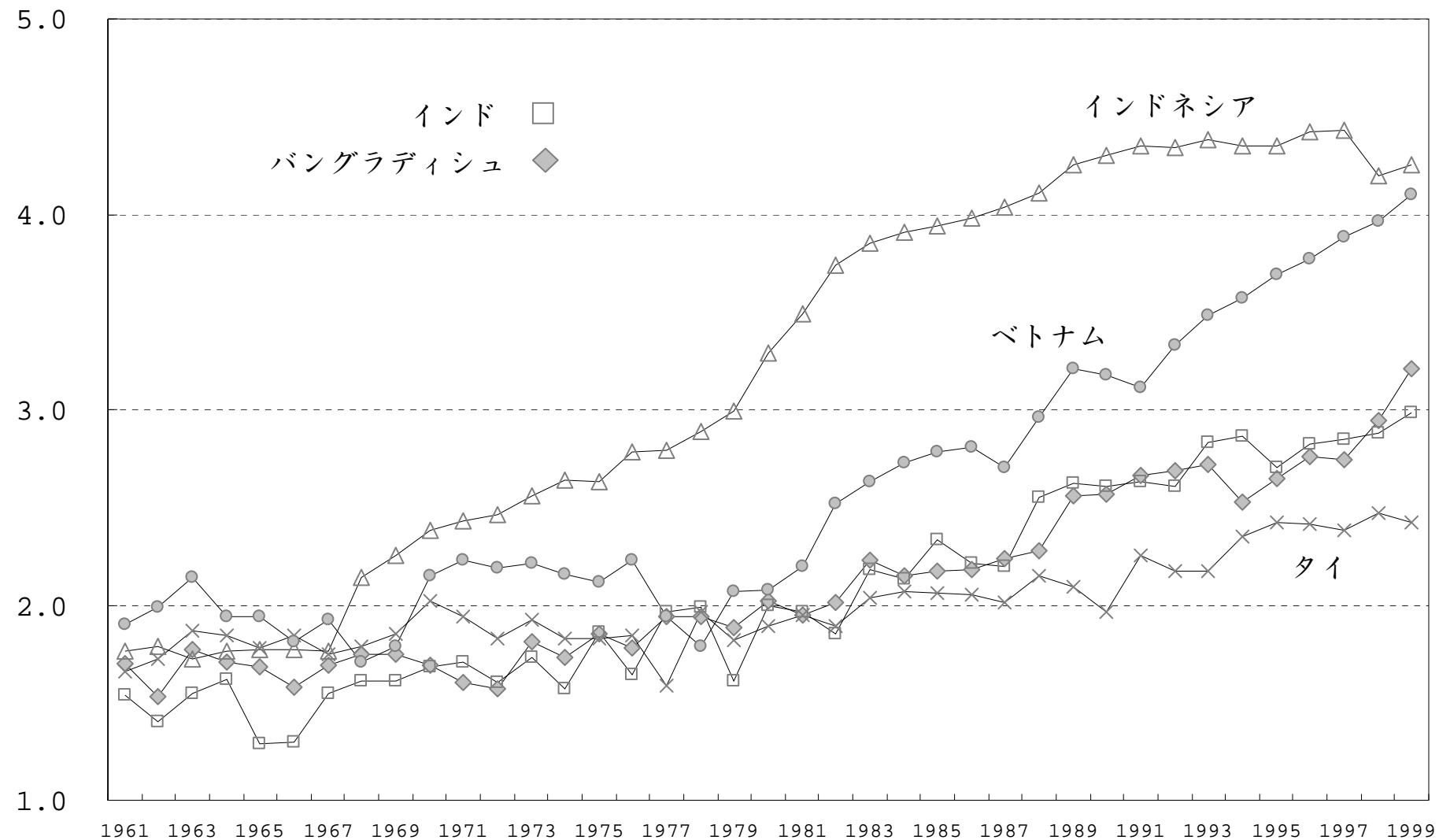
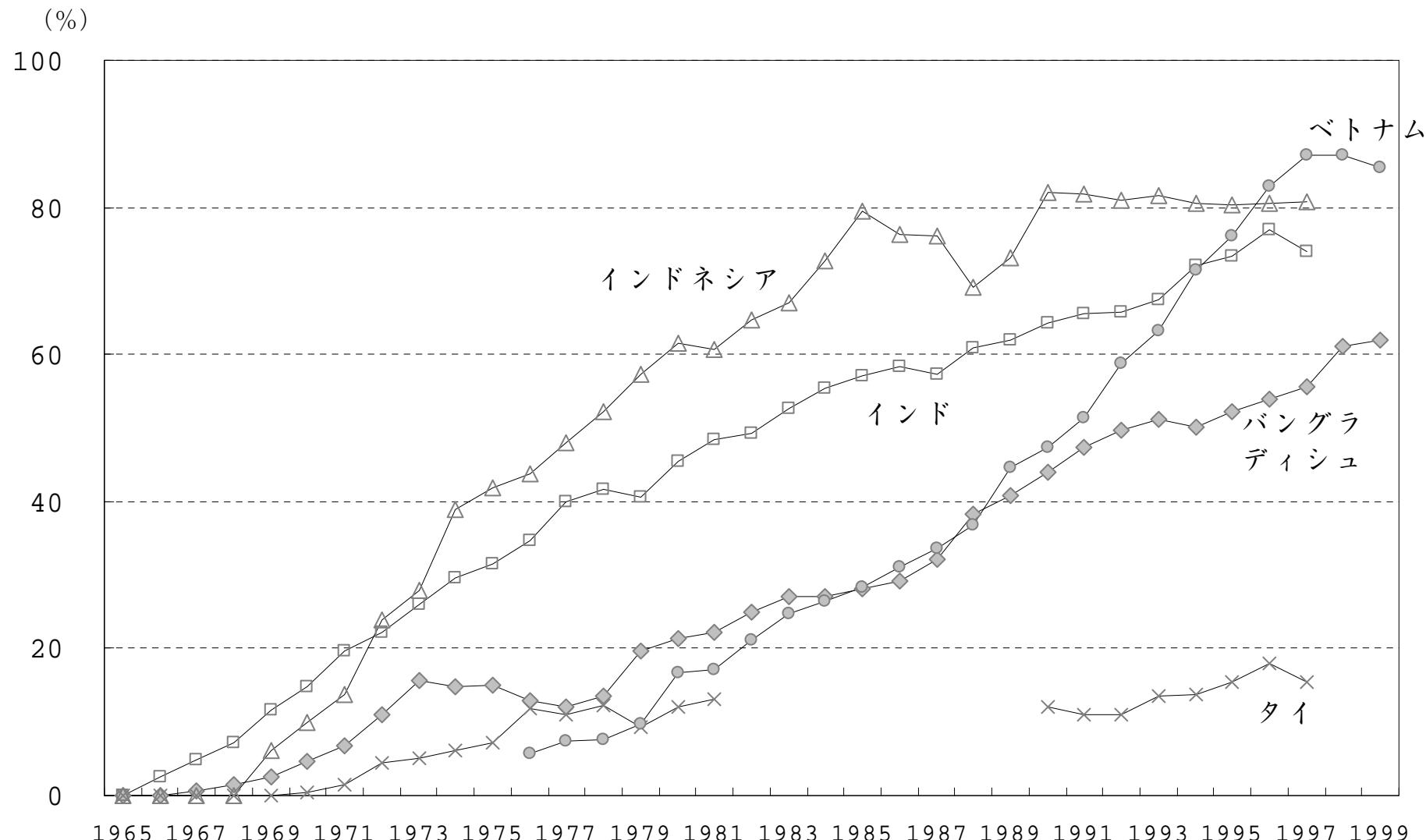
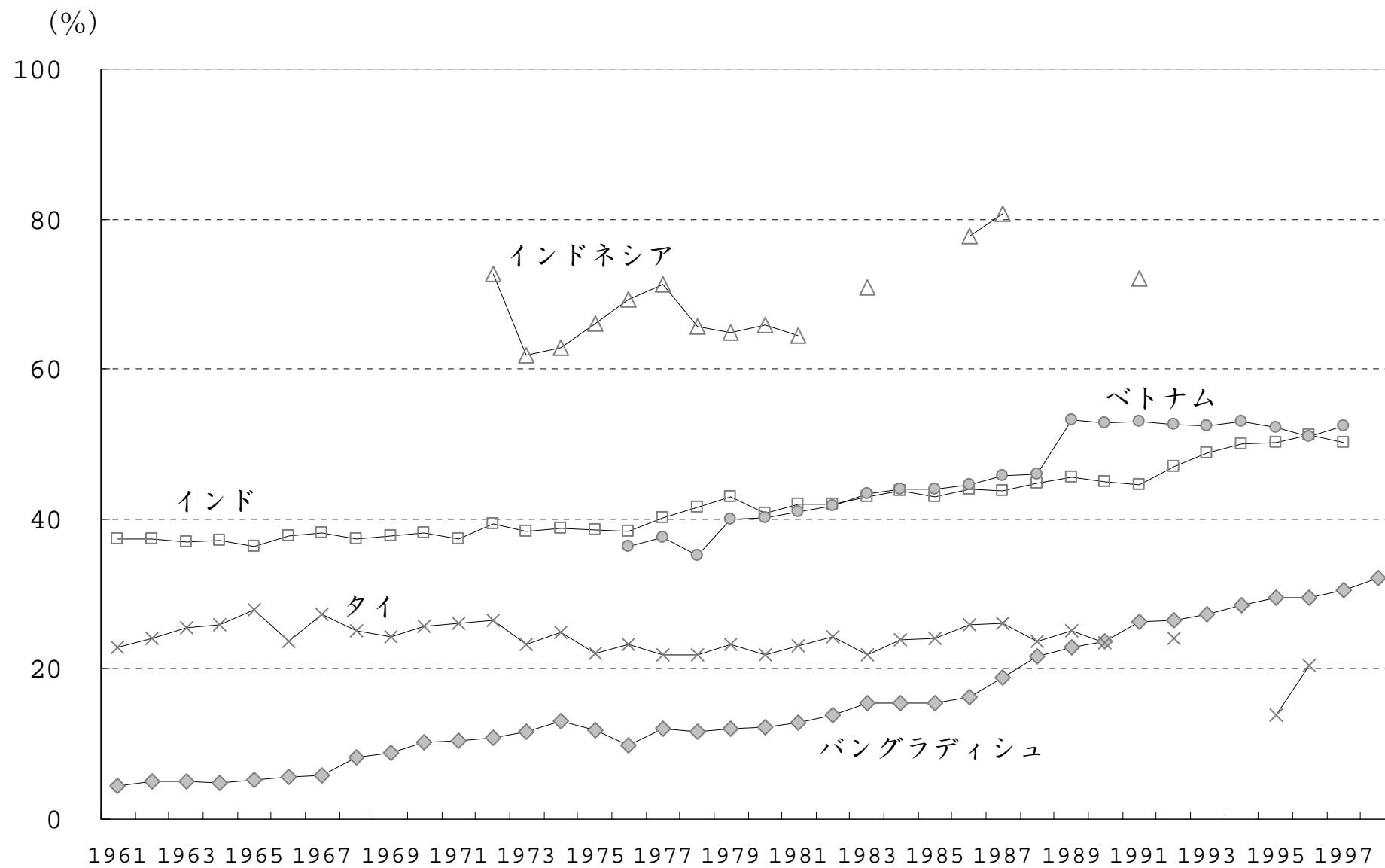
資料: IRRI, *Atlas of Rice & World Rice Statistics*

図28 アジアにおけるコメの単収



資料：IRRI, *Atlas of Rice & World Rice Statistics*

図29 アジアにおける近代品種の普及率（コメ）



資料: IRRI, *Atlas of Rice & World Rice Statistics*

図30 作付面積に占めるかんがい面積の割合 (コメ)

(kg/ha)

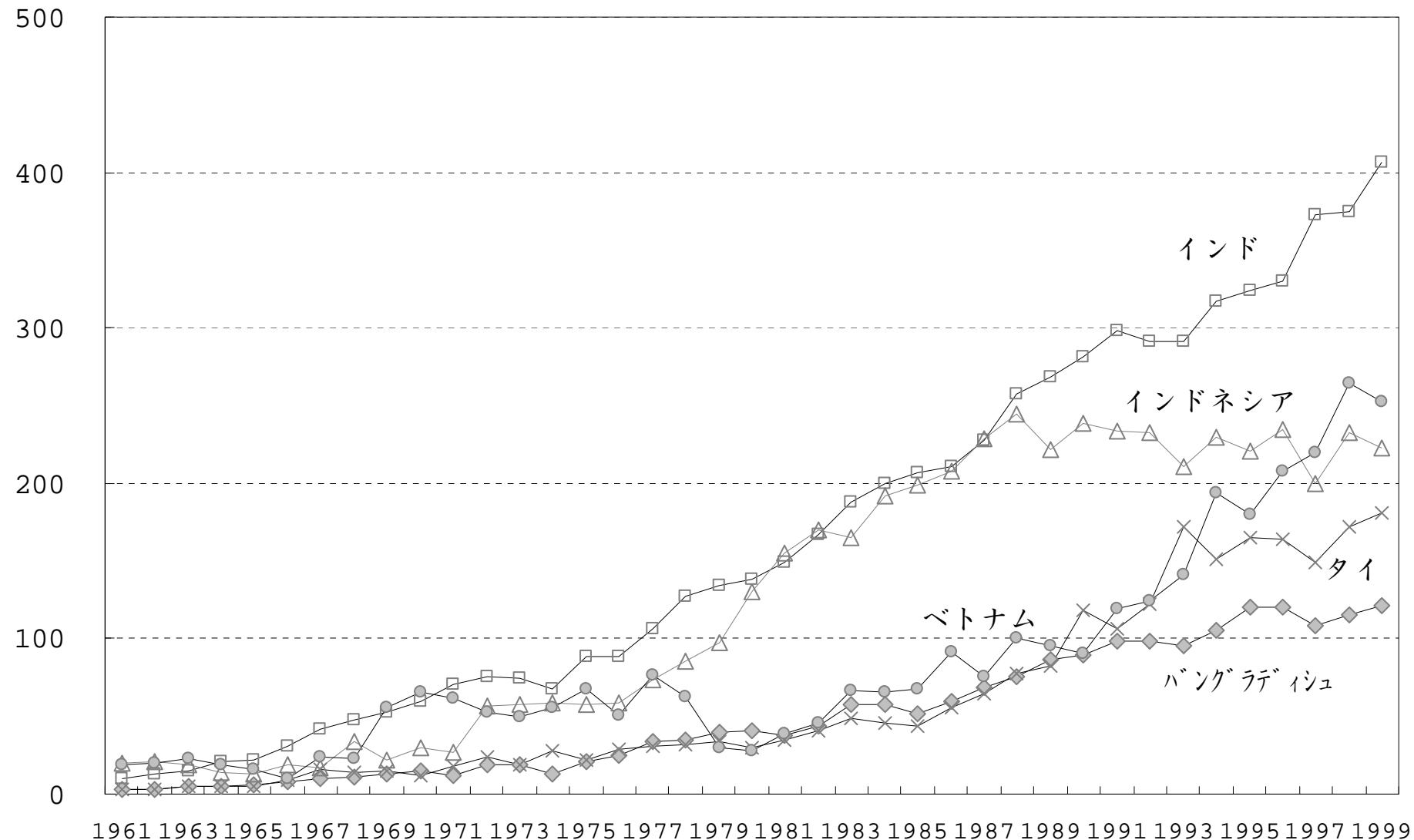
資料: IRRI, *Atlas of Rice & World Rice Statistics*

図31 作付面積当たり化学肥料使用量 (コメ)

(ドル／ブッシュル)

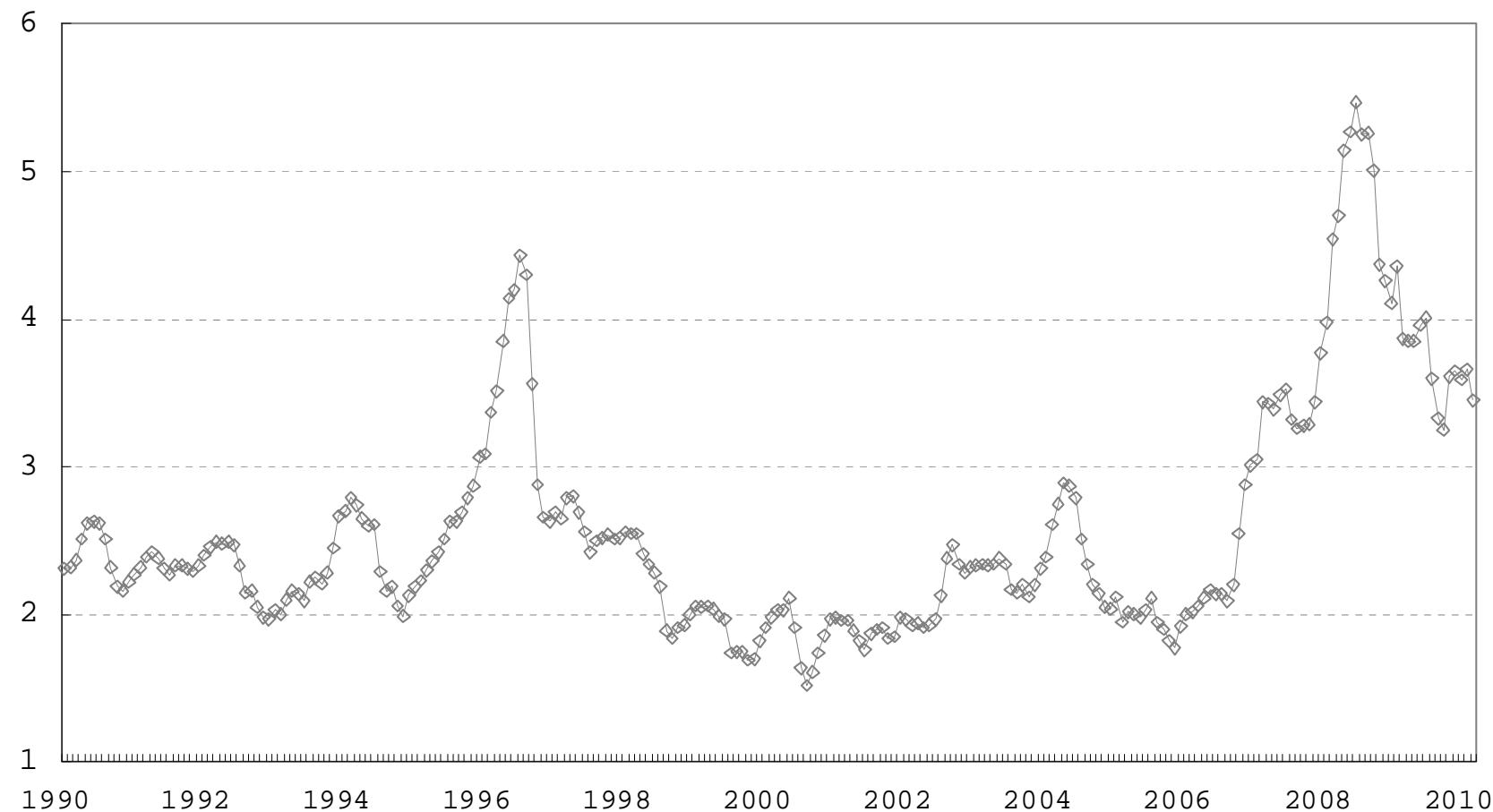
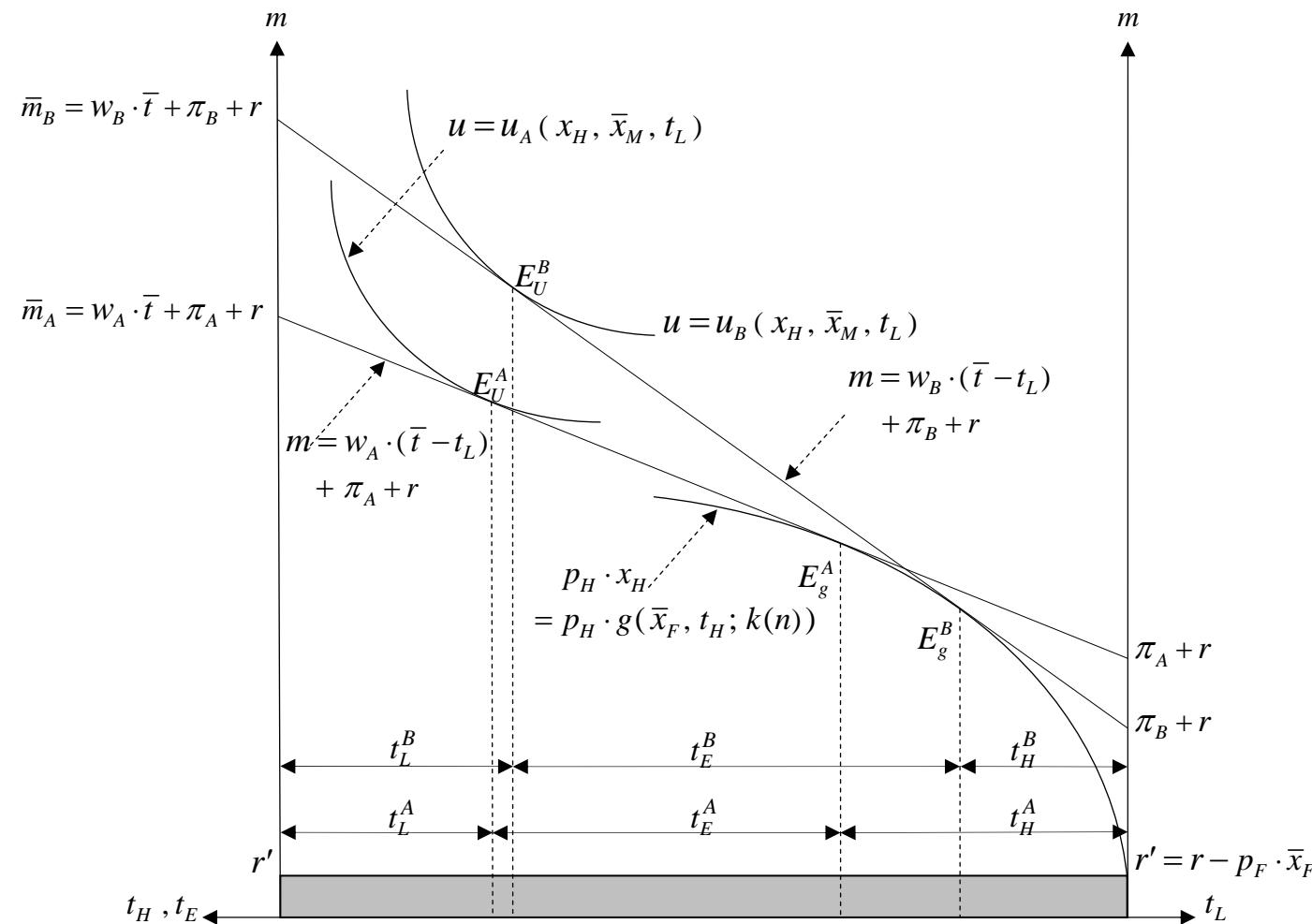
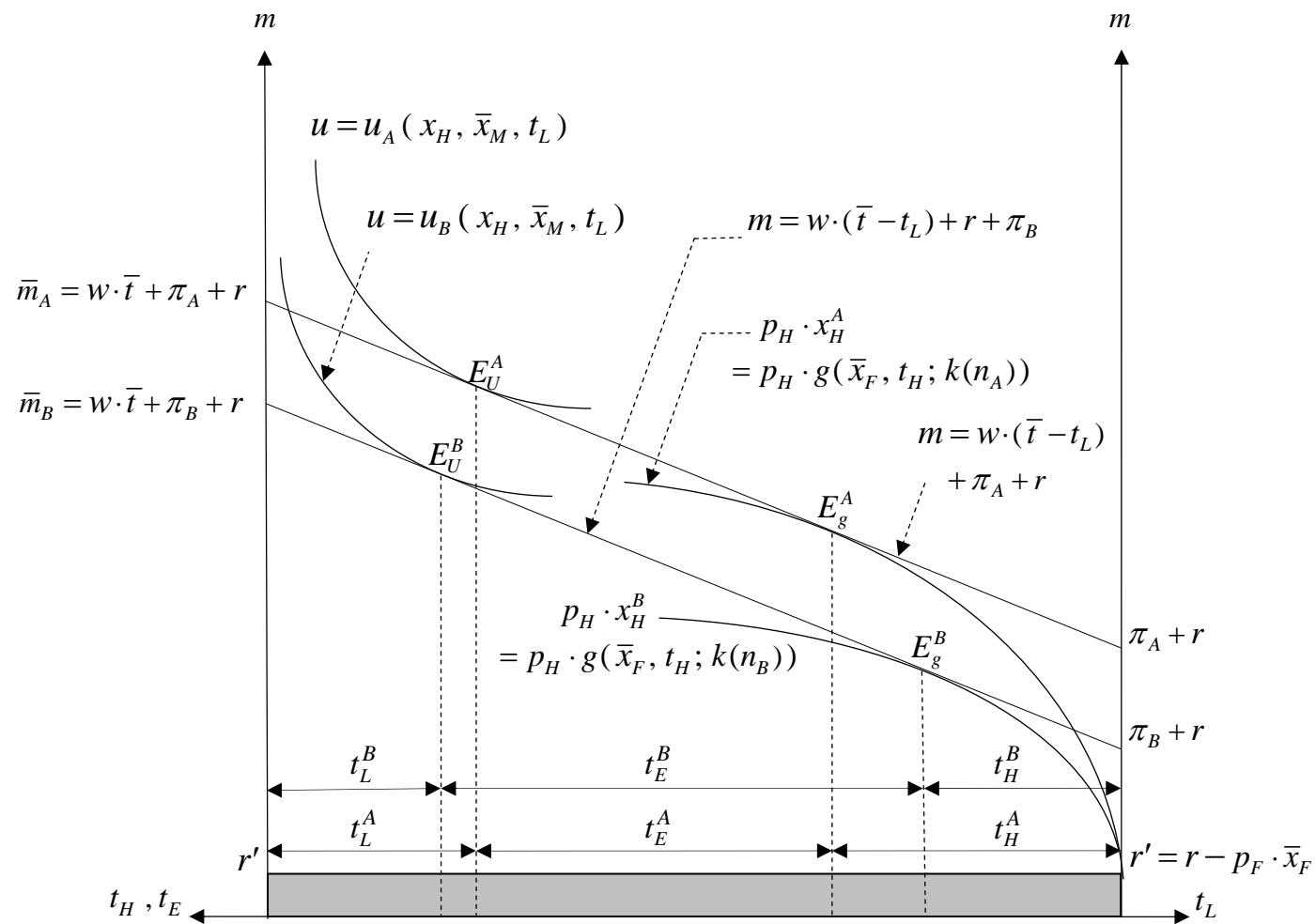
資料：USDA, ERS, *Feed Grains Database: Yearbook Tables*

図32 トウモロコシの農家平均受取価格（米国）

補図 1 働金率 w の効果 : $w_A < w_B$

補図2 世帯規模 n の効果: $n_A > n_B$